

もっといい明日が見えてくる - Letters from Gnable

Gnable

グノレット

Gr-let

保存版

vol.17

2016年6月発行

東大合格
特集号

医学部合格者
インタビュー併載



グノブルを活かし、
最大の効果を上げるヒント満載。
10期生の合格者インタビュー特集。

10期生 合格者インタビュー

- 東京大学 **文系** ————— P1-10
- 東京大学 **理系** ————— P11-26
- 国公立・慶應大学 **医学部** ————— P27-39

2016年 東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

膨大な情報量になっていきますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

勉強を進めていくときに大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんなときには、あらためてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気をもらえると思います。

2016年6月 グノレット編集部

※なお、各インタビューの内容は抜粋版です。グノーブル・ホームページにおいてフルバージョンをお読みいただけます。詳細は各インタビューページの冒頭でご確認ください。

今年度の東京大学合格発表はインターネット(レタックス)でのみ行われました。インタビューを実施した教室には番号掲示を用意し、東京大学合格の出席者にはご自分で番号を指していただきました。



10期生 合格者インタビュー

東京大学

文系

【座談会出席者】 (五十音順、本文中敬称略)

Part 1



いしかわ りょうや
石川 稜也さん
(文I・駒場東邦)



かわの うしお
川野 潮さん
(文I・開成)



さくら さとる
坂倉 慧さん
(文II・駒場東邦)



しょうじ れお
小路 玲央さん
(文II・筑波大附属駒場)



たかた ゆうすけ
高田 悠介さん
(文II・東京学芸大附属)



ばば としき
馬場 俊輝さん
(文II・東京学芸大附属)



まつやま そうへい
松山 宗平さん
(文II・駒場東邦)



やべ としき
矢部 利樹さん
(文I・筑波大附属駒場)

Part 2



うめざわ ゆうた
梅澤 優太さん
(文II・筑波大附属駒場)



はすみ こうき
蓮見 厚輝さん
(文I・筑波大附属駒場)



ふじもと かずき
藤本 一輝さん
(文I・麻布)



みなみ
南 あかねさん
(文III・桜蔭)

東京大学 文系

—Part 1—

いしかわりょうや
石川 稜也さん(文I・駒場東邦)
かわの うしお
川野 潮さん(文I・開成)
さかくら さとる
坂倉 慧さん(文II・駒場東邦)
しょうじ れお
小路 玲央さん(文II・筑波大附属駒場)

たかた ゆうすけ
高田 悠介さん(文II・東京学芸大附属)
ば ば としき
馬場 俊輝さん(文II・東京学芸大附属)
まつやま そうへい
松山 宗平さん(文II・駒場東邦)
やべ としき
矢部 利樹さん(文I・筑波大附属駒場)

※ PDF フルバージョンでは、「学校での評判」、
「英語の勉強法」、「グノーブルの先生たち」も
お読みいただけます。

www.gnoble.com/gnolet17/



グノの音読には、本当に驚きの効果があります。実は、最初僕は半信半疑でした。でも、何か月も音読を続けていくうちに、「英語のまま読める！」と実感できる瞬間が訪れました。

入塾のきっかけ

川野: そろそろ塾を考えなければいけないと思っていた中3の冬頃、お勧めの塾を先輩たちに聞いてみたのです。中でも、長谷川先輩*1の「グノーブルが最高だった」という言葉に説得力があって、先輩が絶賛する先生方に教わりたくとグノへの入塾を決意しました。

石川: 僕は中学受験のとき、当時の東大生に勉強を見てもらっていました。その先生がグノの卒業生で、「大学受験塾の中でもグノは特にいいよ」と教えていただいたのがきっかけで、スタートダッシュ講座*2に参加しました。すぐに気に入ってまず英語で入り、数学と国語も高校になってから入りました。

馬場: 僕の場合は友達のお兄さんから「一番いい英語塾」とグノを勧められました。高校受験が終わってすぐに受けたフレッシュ講座*3で、先生に熱意を感じて授業が楽しかったのですぐに通い始めました。

坂倉: グノにした理由は、駒東生の優秀な人が多かったのと、当時部活が忙しかったので、振替ができるシステムというのも魅力でした。高1の春から、英語と古文でグノに通いました。

矢部: 僕も高1の春から英語と数学で通っていました。当時は勉強をサボっていたので、「このままじゃやばいな」と思って塾を探していたのです。

予備校にも顔を出しましたが、大人数授業に魅力を感じませんでした。1対1対応で教えてくれるグノに心惹かれました。グノの先生は僕たちに親身になってくれます。先生との距離の近さが自分の成長につながっていると思えて、グノで3年間頑張れました。



石川 稜也さん(文I・駒場東邦)

小路: 筑駒では高校入試を内部で受けるのですが、そのとき「英語力が足りない」と実感しました。大学入試まで3年しかないという焦りもありました。そこで、自分なりに調べた上で、「英語に強い」という評判と振替制度のあるグノに決め、高1から通いました。僕はバスケット部と生物部に所属していて、バスケット部は大会前に忙しいし、

生物部は文化祭前に忙しいので、学校に近い立地条件もグノの長所だと思いました。

高田: 高1の頃に通っていた塾では、大量の宿題をこなせなかったし、部活の後で行くと授業中に寝てしまうこともあり、「塾を変えた方がいいのでは?」という親のアドバイスもあり、高2の7月から評判の高いグノに転塾しました。グノでは宿題の量が適量で、振替制度もあって、部活との両立に最適でした。

グノの先生が僕たち一人ひとりを見てくれているのは、名前呼び方にも表れていたと思っています。僕の名前は「タカタ」で濁りませんが、前の塾ではいつも「タカダ」と呼ばれていて、僕も訂正するのは面倒なのでそのままにしていました。グノではどの先生も最初から正しく呼んでくれました。

松山: 僕は高2から文系に決めていました。そこで、「自分でできる」とか「いつでもできる」と後回しにしがちな古文をグノで本格的に勉強しました。

グノの古文は高1と高2の合同です。石川君や坂倉君のような駒東の上位層が高1から古文に通っていて、「グノの古文はとても楽しい」という情報は既に耳にしていました。その評判がグノに入塾する決め手でした。

高2の冬にはサッカー部を引退したので、数学も通い始めました。

グノーブルの英語

川野: 市販の単語帳を使わないことがグノらしさです。単語帳を持っている人たちは必死に単語を暗記しようと頑張っていますが、あれをやろうとすると勉強自体が辛くなってしまいます。

グノでも英単語の暗記は必要ですが、興味が自然に湧くとか覚えやすくなるという点で、勉強の質が大きく違います。授業中に、語源からさまざまな単語を派生させていく解説を目の当たりにすれば、誰でも目からウロコが落ちると思います。

馬場: 先生が体を使って単語のイメージを見せてくれることもよくあります。“take”のような単純な動詞でも、その動きを先生がやって見せてくれたら根本的なイメージがすぐにつかめます。“surprise”の説明も、「上から」という意味の“sur”と「つかむ」という意味の“prise”で、「不意に上から頭をつかまれてびっくり」だと教われば面白い印象にも残り、ときには感動だってします。

石川: グノらしさといえば、1回の授業でもものすごく大量の英文に触れることがあります。しかも、提供される英文は、何年も前の古い話題じゃなくて、ここ1週間くらいの面白いニュースを含め、思わず引き込まれるものばかりです。中東の難民や移民のことも、世間で話題になりはじめていたときに教材になって、僕もちょうど注目していたので、そのタイミングの良さにちょっと感動でした。毎



川野 潮さん(文I・開成)



坂倉 慧さん(文II・駒場東邦)

回的好奇心を刺激されていました。

川野: 普段からグノの教材で慣れているから、英語で情報を知ることには抵抗がなくなります。パリでテロが起こったときにも、登校したらみんなが「テロだ」と騒いでいました。そのとき僕は海外のサイトで、躊躇なく英語のニュースに踏み込みました。みんなが日本のメディアで情報を収集している中で、少し優越感を抱きながら英語のサイトを読んでいました(笑)。

坂倉: 英文の予備知識や背景にある文化まで先生が丁寧に解説してくれます。「余談かな?」と思う知識も、実は英文の理解にとっても役立つのです。難解な英文も、先生がかみ砕いて教えてくれると途端に興味深いものになって、教養まで身につく感じでした。グノの理念でもある「知の力」を鍛えてもらっているのを実感していました。

高田: 教材の英文が自然科学や社会学などのさまざまな分野にわたっていて、英語をツールにしてその分野を学んでいるイメージがありました。僕は、授業で学んだことを親によく話していました。親もグノの授業に興味津々で、熱心に話を聞いてくれました。そうやって親に説明することで、僕自身も英文の内容が記憶に刻まれました。

授業内で演習、すぐに添削してもらえて、直後に解説という授業スタイルも学習効果が高かったです。宿題の解説を聞くのではなく、その場で解いた問題の分からないところが

すぐに解決できたからです。

小路: その場で添削していただけると、先生のコメントをすぐに確認できて自分の問題点を把握できるし、解説を聞くときにも集中できます。

松山: 他塾の場合、宿題が多く、それを解いていかないと授業を受けても意味がないスタイルなので、宿題に追われて大変です。「グノの英語は宿題が少ないのに、どうしてそんなに成績が伸びていくの?」と疑問が湧くミステリアスなスタイルです(笑)。

矢部: 復習中心で実力を上げられるのがグノの特長です。復習といっても、授業で扱った英文を家で何度も音読することが中心で、それならベッドに寝転がりながらでも効果があるので取り組みやすいし、授業中に先生の印象的な解説を聞いているので、授業を再現するのが容易で知識の定着もはかどります。

グノの音読には、本当に驚きの効果があります。実は、最初僕は半信半疑でした。でも、何か月も音読を続けていくうちに、「英語のまま読める！」と実感できる瞬間が訪れました。

小路: 最新の時事ネタに英語で触れるので知的好奇心が満たされるし、そこで使われている英単語を身につけるので、生きた使い方に触れながら自然に語彙を増やせます。市販の単語帳を使う必要がないので、その時間が省けて、他科目の勉強に力を入れられました。グノの英語は、本質を効果的に学ぶことができるよう考えられた合理的な指導方針をとっていると思います。



小路 玲央さん(文II・筑波大附属駒場)

* 1 長谷川哲也さん。開成出身、東大文II進学。Gno-let vol.11「7期生合格者インタビュー」にご参加いただきました。

* 2 新中1生対象の講座(2~3月に開講)。 * 3 新高1生対象の春期講習。



高田 悠介さん(文Ⅱ・東京学芸大附属)

グノーブルの数学

松山：高3のカリキュラムになって最初のⅠAⅡBの授業を受けたとき、先生が無言で板書を始めたのには、びっくりすると同時にとまどいました。周りではみんな一生懸命板書を写していたので、僕もひたすら写しました。それが20分くらい続いたのです(笑)。

あとで話を聞いて納得しました。前期では、先生が板書を通して数学を一般化して、僕たちは練習問題を通して武器や技術を手に入れていくのです。後期では、テスト演習を繰り返すことで、その武器や技術を自在に使えるようにしていきます。この授業構成を知ったとき、「この数学の授業は当たりだな、グノに入って良かった!」と嬉しくなりました。これまでの数学は、目の前の問題

を解くのが前提で、個別の問題の解き方は分かっても、一般化されることのない教科でした。グノの数学で俯瞰的な目を持てるようになりました。

中でもグノらしさを感じたのは、テスト演習後の反省シートでした。このシートには、「なぜ解けなかったのか?」を自分で書く「敗因分析」の欄があります。自分の弱点を文字に書き起こすことで、「二度と同じ轍は踏まない!」と自分に深く刻まれるものがあり、数学の復習法が大きく変わりました。

初めのうちは反省シートが書けませんでした。でも、回を重ねるごとに反省シートが書きやすくなり、同時に成長を実感できました。「このルートではなく別のルートを選んでいたらもっとスムーズに解けたはず」ということが自分でも分かって反省シートに書けるようになるにつれて、数学の楽しさに引き込まれるようにもなりました。

矢部：板書は本当に大切です。言ってみれば、この板書の蓄積がバイブル的な存在になって、すべての授業がこの板書を軸に連動していきます。授業が進むと以前の内容を振り返ることが多くなってきますし、さまざまな知識がこれを軸に定着していくのだと思います。

反省シートを使った自己分析も役立ちました。反省を積み重ねると、本番で窮地に立たされたときにも、時間内に反省して正答のルートに辿り着けるようになります。

グノの数学は、付け焼刃的な数学ではなく、根底から理論的に積み上げていく数学です。理解するのに時間はかかりますが、きちんと取り組んでいけば、どんなコンディションでもある程度の答えを仕上げられる実力を培えます。

高田：僕は先生の理想に全然達していませんでした。宿題は毎回10題ですが、丸をつけられるものはほとんどないというレベルでした。4月から12月までは授業を受けるのが精いっぱい復習まで手が回らず、受験期になってやっと復習できるようになって、それで、数学も少しは成長したかもしれません。数学が苦



松山 宗平さん(文Ⅱ・駒場東邦)

手な僕が本番では3完できたので感謝しています。

坂倉：僕は、学校の数学には全く苦手意識を持っていませんでしたが、高2でグノの授業を受けて、毎回山の高さに圧倒される思いばかり味わっていました。宿題の10題も、1週間で数学だけに費やして、悩み抜いてもそれでも分からない問題があって、それで授業に出て先生の解説を聞くと、自分の力不足に向き合わされてまたショックを受けていました。でも、理論だった説明には毎回インパクトがありました。そのインパクトとともに、問題に対してのルートの取り方も記憶に刻まれました。

グノの授業に圧倒されたりショックを受けたりというのは、多分先輩たちも同じ経験をしていたはずで、そういう道を進んで着実に数学を伸ばせたのですから、僕も先生を信じ



矢部 利樹さん(文Ⅰ・筑波大附属駒場)

て、途中で投げ出しませんでした。

板書ノートに関して言うと、絶大な効果があります。板書ノートで自分が丸ごと理解できた分野は敵なしになります。

具体的な復習方法ですが、僕は計算ミスがそんなにひどくなかったので、問題の解答を隠して、アプローチだけ決めてそれが正しければ終わりにしました。時短ですみません(笑)。

石川：数学が苦手な僕は、高1のとき学校の定期試験で20点台をとってしまって、「これはやばい!」と思ってグノに入りました。苦手な科目は好きにはなれないのが普通ですが、グノの授業で僕は数学好きになりました。

僕は、小学生の頃通っていた塾で、「できないなら帰いなさい」と算数の先生に言われた経験がありました。それ以降、数学の先生にも恐怖心を抱いていました。でも、グノの先生は、明るく優しく接して下さるので、僕は、「何でこんなに数学が楽しいのだろう?」と思えるようになりました。授業に通って宿題をやっていたら一段成績が上がって、学校の実力試験で順位表に載ったこともありました。



石川 稜也さん(文Ⅰ・駒場東邦)

でも、高2では僕には歯が立たない難問に次々あたり、「ちょっと伸びた気になってたけど、全然ダメだ」と悲しくなりました(笑)。

板書ノートを見直ししながら、過去に解けなかった問題の敗因と打開策をまとめていっていたら、高3の春に、「すごく伸びてない?」と友達から言われたこともありました。ところがその後、体育祭で勉強に時間を割けなくなった後では、また「あれ?」となりました(笑)。

難しい宿題も解いている川野君と



川野 潮さん(文Ⅰ・開成)

矢部君には、「この人たちがっこいい。この人たちがみたいになりたい」と憧れを抱いていました。二人を目標に数学を勉強し続けたら、秋のテスト演習で成果が表れ始め、難しいと評判だった年度の東大の過去問を解いても、難しくないと感じられて、僕は自分の成長に少し自信を持てるようになりました。

やはり、勉強法としては、板書ノートを軸に敗因と打開策をまとめ続けたことが良かったと思います。そして、いい先生といいライバルに恵まれた環境にも感謝しています。

川野：僕はもともと算数も数学も好きでしたが、グノに入ってさらに好きになりました。受験学年になっても勉強は数学中心で、東大の過去問も「楽しい」と思いながら延々と解いていました。

高3前期の板書も、僕は最初からまじめにノートをとっていましたが、途中からは、そのまま写すのではなく自分で消化しながら、というやり方をしていました。解けなかった問題に対しては、自分で考えたことや、先生の解説を自分なりにまとめて書き足していたので、そこが万全なら本番でも確実に得点できるという確信を持って、本番前日はその板書ノートをエンドレスで見返していました。

板書ノートに文字化された戦略、もっと言えば、個々の問題から昇華された戦略は、入試本番でも大いに活用できました。



坂倉 慧さん(文Ⅱ・駒場東邦)

松山：書店に並ぶ数学の参考書は、一対一対応の問題集や公式暗記集ばかりです。でも東大はそういう典型問題を出しません。東大は、受験生が初見の問題をどう解くかを見たいのですから、市販の参考書をやっていても勝てません。だからこそ、グノのやり方が有効なのです。



小路 玲央さん(文Ⅱ・筑波大附属駒場)

グノーブルの国語

松山：高2で古文、高3で東大国語を受講しました。常に笑いの絶えない授業でした。先生は生徒を当てるスタイルですが、間違っても重い空気にならないし、恥ずかしくありません。塾は勉強しに行く場所なので、多少の苦痛や憂鬱感があるのは当たり前だと思いますが、グノの国語は、苦痛どころか、むしろ毎週楽しみでした。

古文では、読解重視の面白い文をたくさん読むことができ、昔の人の価値観に触れてワクワクしていました。

東大国語で扱われる難しい評論の中には、話の内容が全く理解できないものもあります。でも、先生が分かりやすい話にたとえて説明してくださったので、いつもすっきりできました。難解なものを具体的な事柄に置き換えて考えてみる姿勢は、教養を身につけていく上でもとても参考になりました。

高田：同じく高2で古文、高3で東大国語を受講しました。一番の収穫は「古文は面白い」と思えるようになったことです。これまで、古文に登場する人物に親近感を持ったことなどありませんでしたが、先生が主人公の行動に突っ込みを入れるのを楽しく聞いているうちに、いつの間にか解説に引き込まれていました。

東大国語では、先生の提示する解答がとても参考になりました。模試などでは、模範解答は文学的で、自分には到底書けないものばかりで



馬場 俊輝さん(文Ⅱ・東京学芸大附属)

東京大学 文系

— Part 2 —

うめさわ ゆう た
梅澤 優太さん (文Ⅱ・筑波大附属駒場)

ふじもと かず き
藤本 一輝さん (文Ⅰ・麻布)

はすみ こう き
蓮見 厚輝さん (文Ⅰ・筑波大附属駒場)

みなみ
南 あかねさん (文Ⅲ・桜蔭)

※ PDF フルバージョンでは、「入塾のきっかけ」、
「グノーブルの評判」、「グノーブルのシステム」も
お読みいただけます。

www.gnable.com/gnolet17/



グノの先生方は、個性による違いはあっても、基本的な授業スタイルは全員同じです。学校行事や体調不良でいつもとは違う先生に振り替えても、違う教え方をされることはありません。

南 あかねさん (文Ⅲ・桜蔭)

グノーブルの英語

梅澤：高1からずっとグノに通っていて、毎回の授業を通して、自然な英文の読み方が自分の中に浸透してきました。中学の間は全く勉強してなくて塾にも通っておらず、英語は学校の宿題に取り組む程度でした。そんな僕だからこそ、市販の単語帳を使わないとか、返り読みはしないなどのグノの方針にスムーズに馴染めたのかもしれない。

グノの英語では、スピードを鍛えられました。東大の問題は時間に対して英文の量が多いので、それをパッと読む上で、グノの普段の演習が役立ちました。

蓮見：僕は英語が好きで、高1で英検準1級を取得しました。そのときは英語と日本語を一对一の対応で英単語を暗記しました。そういう暗記法しか知らなかった僕にとって、語源から単語を説明するグノの解説は新鮮でした。いくつもの単語が語根からつながっていくことを知って、言語としての英語の面白さに目覚めました。

南：言葉の持つイメージから単語を説明して下さるので、私も入りやすかったです。英文中に見たことのない単語があってもその意味を推測できる場面が増えました。偏と旁からきている漢字を見て意味が分かるように、語源のイメージから単語を推測する楽しさがありました。



梅澤 優太さん (文Ⅱ・筑波大附属駒場)

の裾野が広がって、初見の英文への対応力も徐々についていったと思います。

蓮見：確かに、時事的な話題や科学的な話題、美学や哲学の話題など、好奇心を刺激する英文ばかりでした。首相官邸のドローンや、サミットの開催地が伊勢志摩に決まったときの英文など、時事ネタもあって、

新鮮な英語に触れていると印象深いので、新たな知識もしっかり定着しました。興味が持てる英文を用意してもらえると、楽しんで英文に向かえるので効果が高いと思います。模試でもいつも英語の偏差値は高いところで安定していましたが、グノのおかげがかなりあると思っています。

藤本：グノは市販の単語帳を使わずに、単語自体の根幹にあるイメージを重視します。そのおかげで、僕は、機械的に訳語を当てる作業から脱却できました。

英単語を機械的に日本語に置換していく読解には限界があります。英文の内容と自分の内側にある教養とを照らし合わせて、「ああ、あの話題について書かれている」という感覚を得られると、多少難解な英文でも読みやすくなります。

グノでは、抽象度が高い英文や分かりにくい英文については、先生が背景知識まで丁寧に解説して下さいます。そうして理解したことは記憶に残りやすく、音読する際にも先生の解説が蘇ってきます。授業から時間が経っても、「あんなエピソードがあったな」と復習の助けになりました。

す。いい意味で先生を利用するようにしてください。

矢部：まずはグノの先生の言葉を信じてことです。すぐに結果につながらなくても、音読とか板書ノートのとり方など、本質的なことは続けてみることに意味があります。

自分の足でも歩ける段階になってきたと思えたら、自分なりにアレンジを加えていけばいいと思います。



矢部 利樹さん (文Ⅰ・筑波大附属駒場)

高田：惰性で勉強しないということです。1日15時間勉強するという友達もいましたが、勉強で大切なのは時間じゃなくて質だと僕は思っています。

僕は夏休みには文化祭の準備も忙しかったのですが、そういう場合にはスイッチの切り替えが大切です。スイッチが入っているモードで真剣に打ち込めば、どちらも中途半端にはならないと思います。

坂倉：勉強では復習が命だと思っています。特に英語は、過去に読んだ英文を何度も引っ張り出して見直してみると、そのたびに新たな疑問や発見が出てきます。そこを調べたり、考えたり、先生に質問して解決していくと読み方がどんどん深くなります。

小路：東大の文系志望なら、英語をまず固めるべきです。ちなみに、僕は入試本番で英語をミスしましたが、それでも受かりました。グノで頑張れば、合格最低ラインには達するという証明です(笑)。

それから、勉強以外のことも頑張ってください。他のことを切り捨てて受験勉強だけに絞るとつらいし、多くの受験生にとってそんなのは不可能です。だからこそ、グノの柔軟性を利用して、学校行事や遊びなどにも打ち込みながら、総合的に力をつけてください。



馬場 俊輝さん (文Ⅱ・東京学芸大附属)

打ちのめされて初めて「もっと頑張ろう」と実感します。僕の場合、英語の授業で扱った英文が難し過ぎて、一問も正解できないときもありました。でも、打ちのめされなければ気づけないことはたくさんあると思います。打ちのめされても大丈夫な環境がグノにはあるので、何度でも打ちのめされて、その経験を受け入れながら前向きに勉強してください。

川野：グノには柔軟性があるとはいえ、学校の行事を言い訳にしないことは大事だと思います。授業に出られるときは頑張った方が絶対いいです。

東大合格のための戦略は一緒ではないと思いますが、先生や先輩の意見も参考にしながら、自分と向き合って自分に適した戦略を見つけていくことが大切です。

馬場：受験を楽しむためには友達と競争するのがいいと思います。その点、切磋琢磨できる環境がグノにはありますから、クラスの中にライバルを見つけていくのもいいと思います。

悩んだり困ったりしたときは、迷わず先生に相談しましょう。グノの先生は頼りがいがあります。

松山：僕は、数学の先生に質問に行くのに半年かかりました。それがもったいなかったと反省しています。グノには自分のことを理解して下さっている先生が揃っています。



松山 宗平さん (文Ⅱ・駒場東部)

す。でも、グノで示されるものは、論理も分かりやすく普通の言葉で表現されていて、「頑張れば僕でも書ける」と思えて復習しやすかったです。**坂倉**：高1の古文、高2の現代文、高3も東大国語と国語はすべて受講していました。国語を伸ばすというよりも、定期的に国語に触れる目的でした。

まず言えるのは、高1の古文で基本的なことを習得できたので後が楽だったことです。古文を早めにマスターしておく、受験勉強が本格化したときに他の科目に時間を割けます。

東大国語では、僕も提示される解答例の明快さに感謝していました。お手本として参考にしやすいということもありますが、客観的な判断がしやすいように採点ポイントが細かく分けてつけられていたので、自分の答案を見直すときの目も養えたし、自分でだいたい点数がつけられたのは安心感にもつながりました。

石川：僕も、高1で古文、高2で現代文、高3で東大国語をとりましたが、早い段階で古文を仕上げているのは本当にお勧めです。古文単語は1年間の授業で網羅できますが、グノオリジナルの単語帳の特長は単語イメージの欄です。先生も授業中には古文単語のイメージを分かりやすく解説してくださっていました。後でもう一度古文単語を復習しようと思ったときに、イメージがつかめていたので、とてもスムーズでした。



高田 悠介さん (文Ⅱ・東京学芸大附属)

後輩へのメッセージ

石川：メッセージは二つあります。グノは学校生活を尊重しているので、グノと学校の両方を積極的に活用してほしい、ということです。

それと、何度でも打ちのめされてほしいということです。受験生は、

英語の勉強法

藤本：英語に毎日触れないと英語力が劣化してしまうので、少しでも時間を確保して、毎日音読に取り組みました。ただ、机に向かって時間を決めて音読していたわけではなく、寝転がりながらだったり、隙間時間を利用したりして継続しました。100円ショップで購入した防水ジップにプリントを入れて、入浴中も音読しました。

理解できていない英文を音読しても意味がありません。解説を聞いて理解した英文だからこそ、音読を繰り返すことでより深い理解につながるし、英語力向上のための基礎トレとしての効果も高まります。だから、音読と授業はセットです。授業の復習として音読するという姿勢が大切です。復習中心の勉強を続けていたら、高3の秋から冬にかけて英語力がグンと上がりました。

南：私も音読を大切にしていました。その準備のために、授業を聞きながら、先生が黒板にお書きになったことやおっしゃったことを、とにかく書きなぐりました。人にお見せできるようなものではありません(笑)。後でまとめ直すようなまめなことも一切しませんでした。

家で音読するときには、それをすぐに見られるようにしておいて、引っかけたときは見直して大切な

ことの記憶をブラッシュアップしていました。

私の場合、英語が伸び始めたのは高3の秋からで、音読に真面目に取り組んだ成果がその頃になって表れ始めたのだと思います。

梅澤：僕も音読やリスニングにはきちんと取り組みましたが、高1の頃はそれ以上に授業を大切にしました。

最初は本当に何もできず、クラスもa2*だったので、「授業の内容を全部頭に叩き込むぞ!」という気持ちで授業に参加していました。当時は、先生のおっしゃったことをほぼ全部ノートにとっていました。周りの人たちが知っていることを僕は知らなかったの、本当に何から何まで書き取りました。

中学時代は本当に何も勉強していなかったの、a2に入れたのも、今思うとまぐれでした。とはいえ、上にaがあることは知っていたので、「早く上のクラスに上がりたい!」と必死でした。

高3になると、英語だけに時間を割けなくなりましたが、当初の向上心だけは引き継いで英語の勉強を続けて、音読やリスニングは相当やっていた。

クラスが上がるたびにカルチャーショックを受けたのも大きかったです。特にaに上がったとき、その雰囲気は一瞬圧倒されました。でも、「この人たちよりできるようになったら、東大にも絶対に受かるはず。この人たちを全員倒すぞ!」と気持ちを引き締めました。

南：私はほとんどずっとa2でした。でも、「今いる場所で頑張ろう!ここで一番になれば、a1の真ん中の層には食い込めるはず!」と思って、諦めることなく頑張り続けました。

a2の先生もとても熱心で、私たちが苦手なところは繰り返し指導していただけたし、添削もとても丁寧でした。たとえば英作文の添削の場合、間違っているところにただ線が引かれるだけでなく、「ここはこうじゃなくてこう」ということを書き込んでいただき、それをまた黒板でも解説をしていただけました。

黒板を使った解説は貴重です。みんなの答案を添削した先生には、多



藤本 一輝さん(文I・麻布)

くの人が引っかけやすい間違いが分かっていたらいいと思います。そこを説明していただけるので、クラス全体で間違いが共有できます。「確かに私もここで引っかけそうだ」という指摘が毎回必ずあって、他の人の間違いからも参考になることをたくさん学べました。

蓮見：グノの演習で集中する時間を大切にしていました。グノは教室もきれいだし、周りの人も演習が始まるとすぐに真剣になっていたの、いつもいい刺激を脳にもらっている感じでした。

僕にとっては、演習プリントを読むだけなら難しくはありませんでした。でも、授業中に要約を書いてみると全然書けなくて、理解したことを相手に正確に伝えるのは、自分が読めた気になると違うと毎回実感させられました。記述力向上に役立つコメントをいただいたり、解説からたくさんの方に気づいたり、授業でしか得られない経験は本当に貴重でした。

藤本：東大の問題はボリュームが多くてスピードも問われます。その点、スピード感があって、かつ丁寧なグノの授業は有益でした。授業内演習だと時間が区切られるので、少なくとも課題を決められた時間でこなす練習になりました。

南：英語だけでなく数学にも言えることですが、グノのクラス分けテストの方が東大よりよっぽど大変だ

と思いました(笑)。

梅澤：東大には東大の難しさがあると思いますが、英語を読むスピードや読解力、要約力、作文力などは、グノのおかげで飛躍的に伸びました。

蓮見：単に受験テクニックを磨くために英文を使うのではなく、英文の内容に焦点を当てたり、関連するテーマに興味を持ってさらに見識を深めたりという学習態度を養えたのが、東大の入試でも役に立ちました。実際、梅澤君のところにも僕のところにもTLP(トライリンガル・プログラム)*の通知が来ましたから、入試本番でも英語は結構得点できたのだと思います。

グノーブルの数学

藤本：グノの数学は、生徒が問題を解いて先生が解説するだけの授業とは異なります。普通は、扱う問題に対しての解き方を提示するのが授業で、場合によってはそれに終始しているかもしれません。

グノの場合は、思考のプロセスを重視する授業でした。途中で詰まってしまうアプローチの例も示されて、なぜそれでは正解に至れないのかの理由も解説されました。また、正解に至れるプロセスには必然性があるはずですが、それも明確に理解できるようになるのが特長だと思います。

南：グノの文系数学では言葉をすごく巧みに使います。「こうなってこうなる」「こういうことをしてはいけない。なぜならこういうことだから」という考え方の道筋を言葉で説明していただきました。高2の夏期講習で触れたその解説は馴染みやすく感じられたのですが、扱う問題があまりにも難し過ぎたので不安にも駆られました。

そこで、他塾の数学もいくつか体験してみましたが、結局どこもじっくりこなくて、「グノーブルが一番いい」という結論に至りました。

とはいえ、難し過ぎることに変わりはありませんので、「ちょっと私には難し過ぎませんか?」と先生に直接ぶつけてみました。そのときの先生のお答えに私自身納得ができた

のと、先生に相談させていただいて勉強の方針も立てられたので、グノでやっていく決心が固まりました。

数学も英語と同じで、先生は親身に面倒を見てくださいますし、添削もしっかりやってくださいます。基本的な質問や漠然とした質問にも丁寧に応えてくださったので、難しくても信じて通い続けられました。



南 あかねさん(文III・桜蔭)

グノーブルの国語

梅澤：高1で古文、高2で現代文、高3で東大国語を受講しました。3年間ずっと同じ先生のお世話になりました。最初の頃の僕は、「英語を頑張らなきゃ!」と意気込む一方で他の科目まで手が回らず、古文の授業ではやる気がありませんでした。「高1だからいいかな」という甘い考えがあったのも事実です。そんな僕に先生は粘り強く教えてくださいました。

僕は本を読むのが好きで国語も得意でした。だから、「大丈夫!」と高を括っていましたが、古文だけはちゃんと勉強しなければいけないという現実と向き合うことになりました。高1の夏には授業プリントを全部ノートに写して、単語と文法を自分なりにガンガン書き込む、という勉強をしました。そうしたら成績が急上昇しました。

高2の現代文と高3の東大国語に

関しては、授業に勉強をしに行くというよりは、自分なりの解答を先生に見てもらって客観的な判断をいただくのと、それによって安心感を得るために通っていました。いつも気持ちよく個別に対応していただけたことに本当に感謝しています。

グノーブルの先生方

梅澤：先生たちからいつも温かい眼差しで見守ってもらえたことに感謝しています。

a2からaに上がった直後は、周りとの差を目の当たりにして僕としては結構辛い気持ちでした。何か直接声をかけていただいたわけではありませんが、気持ちを盛り上げていただいたり、背中を押していただいたり、大変お世話になりました。

たとえば、「来いよ!」というところで当ててもらえて、「よし!」と思ったことが何度もありました。逆に、分からないところで当てられて、「うわっ」となったこともありましたが(笑)。上手く僕たちの意欲を引き出していただけて、今考えると、本当にありがたかったと感謝しています。

高3では、読解の先生とも、作文の先生とも、添削を通してつながっていた感じがありました。話を直接交わすことがなくても、授業中のやりとりや添削を通していつも応援していただいていたのだと思います。

グノの先生に一貫性があつたのも勉強のしやすさにつながっていました。高2から高3になって先生が変わっても、科目が変わっても、教え方にも、生徒に接する先生方の態度にも、グノには共通するものがあつたと思います。

蓮見：文化祭に向けての準備が忙しかったとき、振替のシステムにもずいぶん助けられました。先生の励ましもありがたかったです。高2のときは実行委員会の副委員長をやっていた、高3のときも演劇のキャストをやっていた、本当に大変な時期がありました。そんなときに、「文化祭の準備頑張ってるね」とか、「文化祭を楽しみにしているね」と先生から声をかけていただいていた



蓮見 厚輝さん(文I・筑波大附属駒場)

*この学年の英語は、高1までa(最上位)から、a1、a2、a3の設定。高2からa4、a5が順次追加されました。

*入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生(上位一割程度)のうち希望者を対象に行われ、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。(http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/)

た。先生方が学校行事に理解を示して下さっていたことがとても嬉しかったですね。

南: グノの先生は、最後まで支えてくださった存在でした。二次試験初日の朝、駒場東大前で先生たちを見つけたときの安心感は忘れられません。

普段の授業でも、私たちのことをよく見てくださるので、必要なことを本当に真剣に教えていただきました。生徒ができることを前提とせず、大切なことや基本的なことは何度も繰り返してくださったので、こっちも、「はい、そこ曖昧なままです」という気持ちでどんどん知識を吸収することができました。

グノの先生方は、個性による違いはあっても、基本的な授業スタイルは全員同じです。学校行事や体調不良でいつもとは違う先生に振り替えても、違う教え方をされることはありません。それに、先生方同士も敬意を持たれているのが分かって、いつも安心して授業を受けられました。

藤本: 先生の思い出といえば高3の英作文の授業です。いつも穏やかな雰囲気、落ち着いた癒しのひとときでした。受験が大詰めになってくる時期でも、心の平穏を保てる授業が励みになりました。

南: 落ち着いたたたずまいのダンディな先生だと桜蔭でも評判でした(笑)。

蓮見: 多分、他の予備校や塾だと、受験直前期は切羽詰まった雰囲気になると思います。最後の授業では、檄を飛ばしたりとか。グノは比較的いつも通りの落ち着いた雰囲気だったと思います。そのおかげで、本番も平常心で臨めました。



蓮見 厚輝さん (文I・筑波大附属駒場)

後輩へのメッセージ

藤本: 授業の復習を怠ってはいけません。予習より復習中心に、授業のエッセンスをしゃぶりつくしてください。授業や教材、周りの仲間からあらゆるものを吸収してほしいです。

南: グノの場合、クラスがトップでなくとも十分戦えます。私は、数学が一番下のクラスでしたし、英語もほとんど $a2$ でしたが、十分に大丈夫でした。グノでクラスが低いことは絶望する理由にはならないです。どのクラスでも先生の質は高いですし、「今いるクラスでっぺんを取る!」という気持ちで、自信を持って、めげずに勉強してください。



藤本 一輝さん (文I・麻布)

蓮見: 苦手だと思い込んでいた科目や分野にあえて取り組んでみると、意外な面白さに気づくことがあります。僕も、数学のある単元がすごく苦手でしたが、真面目に取り組んでみたら、「あれ? いける!」となって逆に得意になりました。東大は総合力勝負なので、何事も苦手と決めつけずに、幅広い視野を持って毎日努力を重ねてください。

梅澤: グノの先生は、生徒が自分で考える姿勢を応援してくださっていると思います。僕も、自分の勉強を自分で引き受けて、自分で考えていく姿勢を鍛えていくことで合格は近づくとおもいます。



梅澤 優太さん (文II・筑波大附属駒場)

その一方で、何事も全部一人でやれるわけではありませんから、グノの環境を活かしてほしいと思います。グノでは、先生にすぐ質問できるし、競い合えるライバルも身近にいます。とても恵まれた環境なのでしっかり活かしてください。



南 あかねさん (文III・桜蔭)

10期生 合格者インタビュー

東京大学

理系

【座談会出席者】 (五十音順、本文中敬称略)

Part 1



かじ いぶき
鍛冶 維吹さん
(理I・駒場東邦)



かつら ひろゆき
桂 宏行さん
(理【推薦入試】・慶應義塾)



かとう しゅうじ
加藤 修慈さん
(理II・駒場東邦)



こもり ゆうま
小森 優真さん
(理II・開成)



さえき ゆうき
佐伯 祐紀さん
(理III・開成)



まつざき しおん
松崎 紫音さん
(理I・女子学院)

Part 2



おくなが てつや
奥永 哲哉さん
(理II・筑波大附属駒場)



かじつか ときお
梶塚 時央さん
(理I・芝)



さとう こうち
佐藤 航智さん
(理I・駒場東邦)



すどう ゆうすけ
須藤 佑介さん
(理I・開成)



なかむら ともあき
中村 朝陽さん
(理I・早稲田)



ばば たくと
馬場 拓人さん
(理I・暁星)



はら ゆうすけ
原 悠輔さん
(理I・筑波大附属駒場)



やひろ まこと
八尋 誠さん
(理II・開成)

Part 3



あいかわ ひで
相川 英さん
(理II・桜蔭)



おだか みわ
小高 美和さん
(理I・桜蔭)



ふるた りくた
古田 陸太さん
(理I・暁星)



まとや かずき
的矢 知樹さん
(理I・筑波大附属駒場)

東京大学 理系

—Part 1—

かじ いぶき
鍛冶 維吹さん(理Ⅰ・駒場東邦)

こもり ゆうま
小森 優真さん(理Ⅱ・開成)

かつら ひろゆき
桂 宏行さん(理 [推薦入試]・慶應義塾)

さえき ゆうき
佐伯 祐紀さん(理Ⅲ・開成)

かとう しゅうじ
加藤 修慈さん(理Ⅱ・駒場東邦)

まつざき しおん
松崎 紫音さん(理Ⅰ・女子学院)

※ PDF フルバージョンでは、「グノーブルの評判」、「先生とのエピソード」、「グノーブルのシステム」もお読みいただけます。

www.gnoble.com/gnolet17/



グノでは授業中に演習をして、それがすぐに解説されるので、解説に集中できるし、「なるほど!」と深く納得できて記憶にも残ります。定着度の高い授業システムだと思います。

加藤 修慈さん(理Ⅱ・駒場東邦)

入塾のきっかけ

佐伯: 中3の夏に「そろそろ英語をやった方がいいかな」と思い、英語でグノに入塾しました。知っている先輩がグノの広告に載っていて、以前からグノには好感を持っていました。通いやすい立地条件も良かったです。

鍛冶: 僕も英語でグノに入りました。高1の頃の僕は英語の成績が奮いませんでした。自分でどうにかできそうにもなくて、英語の塾について部活の先輩に話を聞いてみました。「グノーブルがいいよ」とその先輩が教えてくださったので講習を受けました。授業が楽しかったので、他塾と比べるまでもなくグノに入塾しました。

桂: 東大に推薦入試で合格するとは思っていなかったのですが、二次の勉強のために高1から英語の勉強をしようと思って入りました。僕の学校は進学校じゃないので塾に関してはほとんど情報がなかったのですが、たまたま、医学部を目指している友達がグノに通っていたんです。

松崎: 私が中3のとき、両親がいくつかの塾の説明会に出席しました。そのなかで「一番活気があった」ということで、グノを勧めてくれたので、私は春期講習を受講しました。そうしたら、授業がとても面白かったのです。先生がとても明るく授業をされていたのが印象的で、入塾の

決め手となりました。

加藤: 僕は最初、塾に入るのが嫌でした。学校の勉強だけで十分だと思っていましたが、中3の終わり頃には、親が塾についていろいろ調べてきて、いくつかの塾の中から「自分で選びなさい」とアドバイスをしてくれました。



鍛冶 維吹さん(理Ⅰ・駒場東邦)

サッカー部に所属していたので、振替もできて融通がきくという理由でグノを選んで講習に来てみたら、先生がやる気に満ちていたのに惹かれてそのまま入塾しました。結局、他の塾には体験すら行きませんでした。

小森: 中学進学時に英語だけでも塾に通わせようという親の方針がきっかけでした。グノの英語の評判を聞いて、僕をスタートダッシュ講座*に参加させたのです。英語だけでなく数学もとても楽しかったので、僕は「数学も通いたい」と言って、そのまま英語と数学でグノに通うことになりました。

グノーブルの英語

桂: カリキュラムがよく組まれていると思います。高1・2で文法を固めて、高3で完成度を高めていくというスタンスがいいですね。最後は本当に読解力が鍛えられて読むスピードも速くなりました。

小森: 中学に入るまで英語に触れたことがなくて、ローマ字読みしかできなかったくらいです。そんな僕でも、グノの英語の授業でどんどん英語が楽しくなって自信もつきました。

グノの英語教材は、受験問題の英文というよりも、読んで興味を持てる英文を先生が大量に用意してくださるので、毎回の授業が楽しみです。英語の授業を通して教養も高められたし、世の中で今起こっている出来事を知ることもできました。しかも、和訳や文法解説以上に、内容に関して踏み込んだ説明が聞けるので、いつも先生の話に引き込まれていました。古代エジプトの神々の話や、そ

の頃の宇宙観とか、常識的な英語の授業をはるかに超える奥行きがありました。

佐伯: 先週のニュースや世界の重大事が教材になっているのは魅力でした。たいていの塾だと数か月分の教材が先に渡されて、その内容は過去の受験問題だと思います。グノは毎回の授業でテキストとプリントがもらえるので、活きが違います。

松崎: 私は、高1の夏にスケジュールが合わなくて他塾の英語を受けたことがあって、そのとき、授業のスピードがとても遅くて集中力が続きませんでした。グノの英語は速くて快適です。やる気に溢れた先生の熱意が伝わってくるので、最後まで集中できます。

鍛冶: 僕は英作文が苦手で、高3になっても文法ミスばかりしていましたが、授業の演習でも、宿題でも英作文の機会があって、それをすぐに添削してもらえたおかげでミスを実に減らしました。振り返ってみると大量の英文を書いて添削してもらえたのは、結構かけがえのない経験だったと思います。

自由英作文もずいぶん早い時期から書いて添削してもらえたので、東大受験を考えても他塾の人たちより有利だったと思うし、この経験は今後にも生きてくると思います。



桂 宏行さん(理 [推薦入試]・慶應義塾)



加藤 修慈さん(理Ⅱ・駒場東邦)

加藤: グノらしさといえば単語の覚え方です。たとえば先生がチョークを2本持って、「これが“compare”だよ」って教えてくれます。“com”が「いっしょ」で、“par”が「同等」だから、「同等のものを並べてみる」ことが「比較する」です。

それに“par”は“pair”「ペア」とか、“peer”「仲間、同級生」の語源ですね。こうやって語源から広がりが見えてくる授業がグノらしさだと思います。

市販の単語帳を使って単語を暗記すると、覚えたと思ってすぐ忘れられます。単語を語源から説明されると、頭に入りやすい上に忘れにくいのです。

それから、他塾では予習をして授業ではその解説だと思いますが、グノでは授業中に演習をして、それがすぐに解説されるので、解説に集中できるし、「なるほど!」と深く納得できて記憶にも残ります。定着度の高い授業システムだと思います。

英語の勉強法

小森: おかげ様で東大の入試でTLP(トライリンガル・プログラム)*に選ばれるくらいの英語力が身につきましたが、英語に関しては、グノの先生のおっしゃる通りに学習しただけです。

桂: 音読がやはり基本です。僕の場

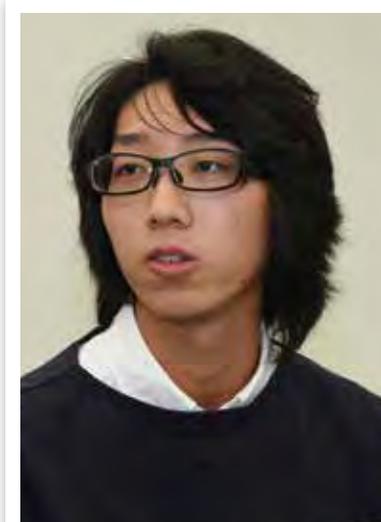
合は、高3のときには30分を1単位として、その週に配られた英文を30分間読み続けました。15分くらいで1周を読み切るので、だいたい2周読み切るところを夜の日課にしていました。それで、復習にもなるし、英語力全般が高められたと思います。

鍛冶: 音読を続けていると、読解力ももちろんアップしますが、リスニングもできるようになります。リスニングでは、当たり前ですけど振り返って聞くことはできません。音読をするときにも前からどんどん捉えていくので、英語の語順での解釈力が上がってリスニング力も上がるのだと思います。

音読のときはただ読むのではなくて、前から意味を取っていく意識が大切ですが、授業のときに先生が、英語を区切りながら読んではその解釈してくださるので、そのやり方を参考にすると思います。

佐伯: 高2の途中あたりから本格的に音読やシャドーイングをやり始めて、しばらく続けていたら、突然聞き取れるようになった経験をしました。それまでは英語の聞き取りは全然できていなかったのが驚きました。

リスニング力が上がるにつれて、読解スピードもぐんと上がりました。音声教材のスピードで練習しているうちに、音声教材に近いスピードで読めるようになった気がしています。



小森 優真さん(理Ⅱ・開成)

*新中1生対象の講座(2~3月に開講)。

*入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生(上位一割程度)のうち希望者を対象に行われ、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。(http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/ttp/)

加藤: 僕が音読を始めたのは高3の途中からです(笑)。それまでは、ただ読むことに意味があるのかと疑問を持っていました。でも、先生から繰り返し音読効果を聞いているうちに、英語に毎日触れないとダメかもしれないと危機感を抱き始め、半信半疑ながらも音読を続けるようになりました。

確かに音読には効果がありました。直前期には英文をスラスラ読めるようになりましたし、東大の過去問でも時間不足を感じることはなくなりました。これを読んでいる後輩の中にも音読の効果に疑問を持っている人はいると思いますが、間違いなく効果があります。

あと、グノで扱った英文の量も大事だったと思います。僕は出遅れていたので英語のクラスは最後まで $a4^{*1}$ でした。それでも、良質な英文をたくさん扱ってもらえたので、本番までにはしっかりと実力がついたのだと思います。

松崎: 寝る前の10分間は要約のGSL^{*2}を聴くようにしていました。授業で扱った英文の音声だから細かいところまで理解できています。内容を追いかけてながら耳を傾けているのは楽しかったし、それだけで復習の効果もありましたし、リスニング力の向上に役立ったと思います。



佐伯 祐紀さん(理Ⅲ・開成)

英語が楽しくなったきっかけ

桂: 中3の頃まで、僕は英語が嫌いで苦手でしたし、その頃受けた英検も不合格で、自分は英語ができないと思っていました。でも、グノで授業を受けて英語が楽しいものになりました。成績も確かに上がりましたが、英文を読めるようになったことが大きいです。

小森: 僕の場合、駅や電車の英語の案内が普通に分かると思えて、それから面白さが増して、英語をもっと勉強したいと思いました。

加藤: 「謎の記号が並んでいる」という状態からの出発でしたが、解説できるようなった時点で結構嬉しい気持ちを感じていました。読めて意味が分かる、というのは本当に楽しいです。

こんな状態からスタートした僕は、英語のクラスは $a4$ で、上のクラスに行くことは正直なところ諦めていました。むしろ、 $a4$ から東大に入ったら注目されるのではないかと、という思いをモチベーションにしていたくらいです。

もちろん不安はありました。だから、「 $a4$ でも東大レベルに達しますか?」「本番では何点くらいとれますか?」と担当の先生に何度も聞きました。そのたびに、具体的な根拠も示してくれながら、「東大に行けます」と励ましてくださいました。いつも見てくれている先生の言葉を励みにして、自分でできる最大限まで英語の得点をアップさせようと自分を奮い立たせていました。

結果として、英文を読める楽しさも味わえるようになりましたし、東大合格も果たせて、グノを信じてきてとても良かったです。

グノーブルの数学

松崎: 高1までの数学の授業では、自分で問題を解けたら次の問題に進んでいくというシステムで、自分のペースに合わせて授業を受けられました。できた問題の解説は軽く聞いて、できなかった問題の解説はしっ



松崎 紫音さん(理Ⅰ・女子学院)

かり聞く、というふうメリハリのある勉強ができて良かったです。先生が一人ひとりを回って見てくださって、そのときに質問をすることもできたし、先生が課題に気づいたときには指摘もしてもらっていました。

小森: 中学の頃から数学が得意だったので、僕はどんどん問題を解いていき、先生も次の難しい問題をどんどんくださいました。問題が解けて先に進めるのが楽しいと感じながら数学の授業を受けていました。

生徒たちも意欲的に取り組めるようになっていましたし、先生もやる気に満ちていて、解説するときも楽しそうなので、教室の中はいつも活気に溢れていました。

その頃には、とにかく「数学は楽しい」という気持ちが味わえて、どんどん問題を解くことで必要な知識や、基礎になる計算力も身についたと思います。

上の学年に進んでからは、より上位の視点を持って戦略を立てていく力を授けていただけて、さらに数学が楽しくなりました。先生からは、戦略をまとめたノートを作るようにとアドバイスを受けていました。ノートが充実していくにつれて、公式の使い方も習熟できて、新しい問題に対処する戦略を立てるのもどんどん楽しくなり、勉強が深いものになりました。

鍛冶: 確かに問題を解くときの普通

的な考え方や戦略指導はすごく役に立ちました。

普通の数学の授業は、問題ごとに先生が解説する形式ですから、生徒も何となく問題を解き、そのうちに経験が蓄積されていくだけです。そのやり方だと、数学という広い科目の中で自分がどこにいるかも分からず、典型問題ならともかく、応用問題になると、どんな武器を使って攻めればいいのかの目も鍛えられないと思います。

グノの授業で、こういう場当たりの問題の解き方から、俯瞰的な目を養って戦略的に問題を解くスタンスに変わったのは大きかったです。自分で問題を分析して、どの道具を使って攻めていくのかも自分で考えられるようになりました。

僕の場合、授業で解いた問題について先生に提出する「反省シート」が役に立ちました。最初は、分からなかったところを書けと言われても、「分からなかったのは分からなかったからだ」としか考えられなくて、全然書けませんでした(笑)。自分を客観視する習慣がだんだん身につくと徐々に書けるようになって、自分の言葉で、どこができなかったのかを分析できるようになりました。

また、それを見返しているうちに、自分の失敗の傾向も意識できるようになったし、新しい問題に対する方針を考えるときにも論理的に考えられる力がついて、数学の成績が飛躍的に伸びました。

松崎: 先生たちは、私たちの力を伸ばすために、問題選びにも配慮してくれていたのだと思います。授業で扱う問題は考える力が鍛えられる難しいものが多かったです。しかも、私たちが忘れたころにその類題がまた出てきます。知識も考え方もしっかり定着するようになっていたと思います。

英語についてもそうなのですが、数学に関しても、グノの課題や宿題に取り組むだけで、特別なことは他に何もしていないのに力がつきました。



鍛冶 維吹さん(理Ⅰ・駒場東邦)

グノーブルの国語

佐伯: 高1で古文を受けて、まず授業自体が楽しかったのと、1年間受けただけで古文が仕上がってしまい、受験学年で他科目に時間を割けたメリットは大きかったです。

鍛冶: 僕は、高1で古文、高2で現代文、高3で東大国語を受講しましたが、国語でもグノの特長である添削があります。自分の書いた解答と模範解答とを見比べても、なかなか正しいかどうかの判断は難しいのですが、添削を受ければそれがすぐに分かるし、答案の書き方も分かってきます。

提示してもらえる解答例も、参考にしやすいものだったので、自分の目標にできて勉強しやすかったです。

小森: 僕も高1から、古文、現代文、東大国語と継続して受講しました。先生が楽しそうに授業をしてくださるから気づいたらこっちも楽しんでる、というのはグノの他の科目と同じです。

それから、こっちが書けそうな模範解答が示されるのではなくて、たとえば、本文のどこから表現を借りているのかなど、根拠をはっきり示していただけたので参考になって助かりました。



桂 宏行さん(理【推薦入試】・慶應義塾)

東大を志望した理由

松崎: 私は、小さい頃から将来やりたいことが、まだ具体的には見えていなくて、そのため、レベルの高い大学に進学すれば人生の選択肢が広がると思って東大を志望しました。東大には2年次に進振り(進学振分け)があって、進学する学部・学科を大学入学後に決定できるのが魅力的でした。

加藤: 僕も将来やりたいことが決まっていなくて、どうしようかなと考えた結果、東大を志望することになりました。進振りのある東大なら、大学に入学してから1年あまりは進路を決めなくていいわけですから、じっくり自分のやりたいことを考えられると思いました。



加藤 修慈さん(理Ⅱ・駒場東邦)

佐伯: 小さい頃から「医者になったら?」と周りから言われている環境だったので、その気になっていました。東大受験でも迷うことなく理科Ⅲ類を志望しました。今のところ、臨床医学に進もうとは思っていますが、高校時代にはイメージすらつかめなかった研究への道も含めて、具体的な方向性は大学入学後に検討するつもりです。

小森: 開成には「東大に行く」という雰囲気があって、僕自身も「東大に行くのかな」と何となく思っていました。具体的に進路を決めたのは高1のときです。

僕はもともと化学が好きなので、化学に関係があって人の役に立つ薬関係の研究をしたいと思っていました。ただ、薬学科のある大学は全国的にも多くありません。その中でもできるだけレベルの高い大学に行きたいと考えた結果、東大を志望することになりました。

*1 受験学年の英語は、 a (最上位)から、 $a1$ 、 $a2$ 、 $a3$ 、 $a4$ 、 $a5$ の設定でした。

*2 中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。(Gnoble Sound Laboratory)

東京大学 理系

— Part 2 —

おくなが てつや
奥永 哲哉さん(理Ⅱ・筑波大附属駒場)
かじつか ときお
梶塚 時央さん(理Ⅰ・芝)
さとう こうち
佐藤 航智さん(理Ⅰ・駒場東邦)
すどう ゆうすけ
須藤 佑介さん(理Ⅰ・開成)

なかむら ともあき
中村 朝陽さん(理Ⅰ・早稲田)
ばば たくと
馬場 拓人さん(理Ⅰ・暁星)
はら ゆうすけ
原 悠輔さん(理Ⅰ・筑波大附属駒場)
やひろ まこと
八尋 誠さん(理Ⅱ・開成)

※ PDF フルバージョンでは、「入塾のきっかけ」、
「将来に活かせる英語」、「グノーブルの魅力」、
「後輩へのメッセージ」もお読みいただけます。
www.gnable.com/gnolet17/



名前を覚えていただいただけでなく、先生方との親密な関わりがたくさんありました。一人の人として見ていただいていたいなかったら、僕は「お客さん」になっていたと思います。

八尋 誠さん(理Ⅱ・開成)

グノーブルの英語

梶塚:僕は初めての授業から高3カリキュラムだったので、読解と英作文の連続で、まずは授業の長さの洗礼を受けました(笑)。しかも「休憩がある」と聞いていたのに、前の授業が延びて実際の休憩時間は1分くらい。「話が違う!」と思いました(笑)。その日はかなり疲れて、家に帰ってすぐに寝てしまいました。

でも、これほどに「濃い授業」は生まれて初めて受けました。内容の濃さもありますが、集中できるので充実感もありました。授業中にはよく当たります。当たるからこそ僕たちは集中している必要がありますが、先生の方では、生徒とのやりとりを通して僕たちの分かっているところと、説明が必要なところを把握しています。一方的な授業とは全然違うのもよく分かりました。

原:先生と生徒との親密な一对一のやり取りには、「丁寧に面倒を見てもらっている」という安心感がありました。「当てられたくない」という気持ちはもちろんあります。でも、生徒が頓珍漢なことを連発しても、グノの先生は笑顔で受け止めてくださいます。先生が生徒を見捨てないどころか、「頑張っ!」と励ましてくださるのが嬉しかったです。

中村:先生と生徒の距離の近さは僕も感じていました。先生方は本当に



奥永 哲哉さん(理Ⅱ・筑波大附属駒場)

使ってテストを繰り返します。難しい単語のスバルと意味をひたすら一対一の対応で覚えて、使う機会もなく、使い方もよく分からない単語が蓄積されていくのが嫌でした。

一方、グノの授業では、長文の中で使われている単語を取り上げて、その語の成り立ちから本来のイメージを教えてもらえます。そこから意

味がどう派生していったかとか、同じ語根を持っている関連語にはどんなものがあるかがブワッと膨らんでいくのです。

黒板に広がっていく板書にも、言葉と体を使っての先生の解説にもドラマがあります。語根から単語のイメージをつかむ覚え方は、ひたすら無機質に覚えるのとは一線を画していました。語根と接頭辞や接尾辞の組み合わせから、単語のイメージがイラスト的に頭に浮かぶのが新鮮でした。

八尋:僕も、英単語と日本語訳を覚えさせられる丸暗記が大嫌いでした。単語帳を買って暗記しようとした時期もありましたが、面白くないので全然続かなくて。そんな僕にとって、「市販の単語帳は要らない」というグノの方針は画期的でした。

ひとつの単語の意味はたったひとつではなく、さまざまな背景があって幅広い使われ方をします。そうした単語が授業で毎回出てくるので、復習の際に一緒に覚えられます。語彙が飛躍的に増えました。

単語の使われ方によっては、単語帳に載っている意味で解釈できないものも結構あります。こういう時こそ、一般的な意味に縛られず、語源を踏まえて文脈に合致した解釈をすることが大切です。語源から単語の意味を把握するグノの方法を用いれば、模試の和訳問題も高得点で安定します。

もありましたが、結局それを使わずにグノの教材をやり通しました。英語は大量で良質の教材が配られるので、それらをしっかり復習するだけで十分です。結果的に、数学も英語も成績が上がりました。

桂:僕の通っていた高校ではこれといった受験対策をしてくれませんでしたから、とにかくグノを信じて勉強しました。僕は推薦入試で合格しましたが、一般受験しても合格を勝ち取れるだけの実力をグノで培えたと思っています。



松崎 紫音さん(理Ⅰ・女子学院)



佐伯 祐紀さん(理Ⅲ・開成)

後輩へのメッセージ

小森:苦手な科目は苦手では仕方ないので、足を引っ張らない程度に勉強すれば大丈夫です。それよりも、自分が好きな科目や得意な科目を徹底的に勉強して、「この科目だけは絶対に負けない!」という状態を作ってください。僕の場合は「英語だけは絶対に負けない!」と信じていて、それが自信になって東大合格に結びつきました。

松崎:不安になったとしても、「絶対に自分は受かる!」と信じてポジティブに考えて勉強してください。模試などの点数が悪くても、「どうせ本番受かるからいいや!」と気にせず次に向かって頑張るようにしていました。

加藤:僕も「落ちる」とは微塵も思っていないませんでした。英語のクラスがa4でしたが、「絶対に合格するから、クラスは関係ない!」と前向きでしたね。「自分は受かる!」と信じているとモチベーションが上がりますし、受験当日も自信を持てます。

佐伯:グノの英語では受験界の常識に外れたことも言われます。たとえば、「市販の単語帳は要らない」とか。宿題も少ないですし、「本当に大丈夫か?」と最初は半信半疑でした。でも、グノを信じると心に決めて勉強していたら、最後に結果も伴いました。グノを信じて絶対大丈夫です。

鍛冶:僕も、グノの先生や教材は本当に頼りになるので、信じるのが大切だと思います。下手に自分のプライドで自分のやり方を押し通すのではなく、先生のおっしゃったやり方を素直にまねると、順調に成績が伸びます。

数学の参考書を自分で買ったこと

鍛冶:駒東にも開成と同じ雰囲気があって、東大を目指すのが当然だと思って勉強していました。みんなも東大を目指していて、「切磋琢磨しようぜ!」という、いい意味でのライバル意識がありました。特にライバル意識が強い友達とは、模試などで勝負しながら、お互いに刺激し合って勉強しました。

桂:慶應はほとんどの人が内部進学で外部受験をしません。僕も内部進学を考えましたが、一般入試で慶應を受験しても合格するだろうという見込みがあったので、高1で「東大を目指してみよう」と思いました。グノに入塾したのは、その対策をしたかったからです。

東大の推薦入試に関しては、高3の夏頃に話題になっていましたし、ノースクで出願できることもあって受験してみました。僕の学校から東大に行くという人が他にいなかったの、校内の選考はスムーズに通りました。

出願の際には、自分が取り組んできた活動のうちアピールできる点を示します。書類選考が通ると、二次試験として面接があって、センター試験も受験します。

僕が提出したアピール点のメインは、「第56回日本学生科学賞」の中学の部で「科学技術振興機構賞」を受賞したことです。このときは、津波発生伝播シミュレータを作成して応募しました。他にも、「情報オリンピック」で本選出場したことや「物理チャレンジ」で銅賞を受賞したこと、「セキュリティ・キャンプ」のことなども書きました。面接では、これらの活動について、ホワイトボードに漸化式を書いたりしながら説明しました。



小森 優真さん(理Ⅱ・開成)

中村「この単語の語源はこうで、もともとこういう意味があったけれど、今はこういう意味に変化した」というストーリー自体が面白いし、面白いものは記憶に残ります。

それから、グノではたくさんの英文を扱うので長文を読むだけで必要な語彙を網羅できました。先生が密度の濃い解説をしてくださるのでしっかり理解もできています。そういう英文の読み込みが復習の中心で、読み込みをしていれば、何度も登場する単語や表現は覚えます。そして、何度も出てくるのは当然大切な表現です。しかも、読み込みをしていけばそういう表現は使い方で頭に残ります。市販の単語帳の覚え方よりも何倍も効率がよく、英作文でもすぐに使える語彙力が身についたと思います。

佐藤：他塾の授業は設問重視です。本文の内容よりも、設問への答え方に焦点を当てて解説していきます。英文の理解も部分的になってしまいます。英文全体の流れや主旨もよく分からないまま授業が終わることもよくあります。

一方、グノは内容重視の授業です。単に「答えが出せればいい」というスタンスではなく、「筆者の主張はこれで、こういうふうに話題が展開していく」とか、「このトピックが次の段落にどう影響するのか」とか、本文全体の流れをしっかりと押さえていきます。英文の文化的なバックグ



佐藤 航智さん(理I・駒場東邦)

ラウンドや学問的背景も解説してもらえます。

こうして背景まで理解できている英文を音読すると、さらに理解が深まって力がつきます。

奥永：僕が以前通っていた塾では、型にはまったマニュアル通りの英語の授業でした。グノでは、先生と生徒のやりとりから授業がどんどん発展していく感じで、授業が生き生きしていました。

ただ、入塾直後はとまどいもありました。グノの英語は、英語の語順で英語のまま捉えていきますが、以前は、頭の中で日本語に置き換えて訳しながら解釈していたからです。

でも、グノ式の英語の読み方に慣れてきたら、こちらの方が圧倒的に快適でした。頭の中で翻訳しながら解釈するよりも、英語をそのまま理解する方がうんと自然な感じがします。

八尋：グノでは授業中に演習時間を取ってくれるのが良かったです。僕はあまり真面目ではないので、宿題を解説するスタイルの授業だと、宿題をやらずに時間を無駄にしたかもしれません。その場での演習だと、「さあ、やろう！」といつも前向きに取り組みました。

馬場：要約をその場で添削していただけなのはやる気につながってありがたかったです。

10点満点の4点以下だとがっかりしますが、「4点以下の人ほど学

べることが多い」と先生がフォローしてくださるので、「頑張ろう！」と思えました。上手くできなかった人ほど課題が浮き彫りになっているのだから、そこを補えば成長につながるということでした。

合格点の8点以上だと「もっともっと頑張ろう！」と思えます。結局、何点でもやる気につながるようになります(笑)。

それから、授業の進行が速いので集中力が途切れません。他塾に通っていたときはゆっくり進んだので、他のことを考えてしまっていました。グノの先生はテンポよく授業が進み、ほとんど無駄がなくて重要な情報が多いし、うっかりしていると当てられたときに困ることになるので注意力が持続しました。

須藤：授業だけでなくテキストにもグノらしさがありました。他塾では、最初に分厚いテキストを渡されます。そうすると、「まだこれしか進んでいないのか」とか「まだこれだけやらなきゃならないのか」とか思ってため息が出るし、いかにも「受験勉強やっています」感がつきまといきます。

グノでは、毎回配付されるテキストやプリントに新鮮な気持ちで取り組めるし、授業で扱った教材がどんどん増えていくにつれ、自分の進歩も実感できました。

中村：テキストやプリントが毎週作られるので時事ネタも英語で読め



須藤 佑介さん(理I・開成)

す。たとえば、羽生結弦選手の金メダル獲得とか、日本人のノーベル賞受賞や首相官邸のドローンの話題など、興味はあっても受験生はテレビを見ている余裕もありません。グノの英語の教材が貴重な情報源になっていました。



中村 朝陽さん(理I・早稲田)

英語力の伸びを実感した瞬間

梶塚：入塾したときは英語が全然できていない状態でしたから、入ってすぐに伸びているという感覚がつかめました。たとえば、部活でプログラミングをしていると、調べ物で海外のサイトに辿り着くことがあります。以前は敬遠していたこういうサイトも、読んでみようと思えるものになっていました。

原：僕も趣味でプログラミングをしています。調べ物をしていて海外のサイトに辿り着いても、中学生の頃は読めないでそこは飛ばしていました。高校生になると普通に読めるようになりました。

勉強方法としては、授業で扱った英文の音読です。そのときには授業中にメモしたのを見直して、知識を確認していました。特に変わったことはやっていませんでしたが、週に2、3回、気が向いたら音読するというのはずっと続けていました。

梶塚：勉強方法としては僕も復習中

心です。授業を聞きながら、先生の話を書きながら書いていました。解説が速いので、きれいに書くことは考えないでザザザっと書いていました。先生が同じ話に触れたときは、ノートペラペラめくって、「以前にもこんな話をしていたな」と考えを整理しました。ノートと記憶がリンクして覚えやすかったです。授業が終わってから次の授業までの1週間で、音読をしながらノートに書いた知識を定着させました。

奥永：高3の夏までは野球をずっと続けていて、授業に出席して宿題をやるだけで手いっぱいでした。音読にも時間を割けませんでした。そんな僕でも、高3の夏の模試でグノ効果を実感しました。「英語力は落ちているだろうな」と思っていたのですが、周り比べてビハインドをとっている成績ではありませんでした。授業中に集中して取り組んだのと宿題をきちんとこなしたのが良かったと思います。

文化祭準備で忙しい10月はほとんど塾に来れませんでした。そうしたら、11月の模試で英語が相当ひどい成績で…。このとき危機感を抱いたので、11月以降は音読に力を入れました。結局、夏休みの間と冬以降には音読に励んで、その効果は直前期に表れ、最後は英語でそこそこには得点が稼げるところまでいきました。

音読は、やればやっただけの効果が出る効率の良い勉強方法だと思います。

梶塚：音読については、入りたての頃は半信半疑でした。でも、続けていると読解スピードが速くなって、自分が変わっていくのを実感できました。

慣れていないうちは、前から読んでいると、英文の構造がつかめなくて詰まってしまう。詰まってそこで悩んでいると前の内容を忘れて、「何の話をしているんだっけ？」となってますます読解に手間取ります。音読を続けていると、初見の英文でもそういう詰まり方をしなくなります。

佐藤：僕は初めから音読に力を入れていました。音読のコツは妄想です。

3000人の観客が詰めかけた会場に立ってスティーブ・ジョブズの気分でプレゼンする、というのを、親には恥ずかしいのでバレないようにやっていました。数学の勉強でずっと座っていて疲れたときには、「じゃあ、プレゼンするか」って、息抜き代わりに(笑)。

アクションをしながら音読するのは単純に楽しいです。「滑らかに読めているな、俺！」という感じで自分に酔えますし、こういうテンションだと、ずっと音読していても飽きないですね。

高2の終わり頃に「英語をスラスラ読めるな」という感触を得ました。学校の実力試験でも順位が上がり、「学校の模試で大したことないのかも」とさえ思えるようになりました(笑)。

馬場：グノに復帰した頃は本当に英語ができず、入塾直後のクラス分けテストもボロボロでした。学校の仲間が上のクラスにいる中で僕は焦り、とにかくついていこうと必死でした。高2の1学期と夏休みはずっと英語に費やして勉強していたら秋にa*に上げられました。

でも、その頃は知識を増やしていくことに重点を置いていて音読は、高3の夏が終わるまであまりやっていませんでした。「やろう」という気持ちはあっても、他科目の勉強で時間をなかなかとれませんでした。



馬場 拓人さん(理I・暁星)

*この学年の英語は、高1までa(最上位)から、a1、a2、a3の設定。高2からa4、a5が順次追加されました。



梶塚 時央さん(理I・芝)

「寝る前の30分」と思ってベッドに入っても、「明日でもいいや」とそのまま寝てしまっただけです。

夏休みが終わってからは、周りとの差がまた開いていることに愕然としました。特に「ヤバイ」と感じたのは要約です。他の人たちは合格点の8点を超えても自分はずっと4点以下。危機感を覚えて、朝と夜の30分ずつ音読の時間を作りました。効果は入試直前に表れました。過去問を解いたり直前講習を受けても、力がついていないのを実感でき、「このまま行ける！」という自信を持って本番を迎えられました。

須藤：僕も入試直前に英語が伸びましたが、音読を始めたのは高3の春からです。ぎりぎり間に合った感じでした。ほぼ毎日、夜が更けてきた頃に30分くらい、その週の教材を読みました。授業の次の日に音読するとひっかかりますが、1週間後には完全にスラスラ読めるようになります。

八尋：中学までは、文法を覚えて、文構造を解析して、単語を逐語訳していく、というイメージで英語の勉強をしていました。この頃は学校も文法メインだったので、学校の成績も悪くありませんでした。

でも、高1の最初の実力模試で、長文が全然読めなくて衝撃を受けて、焦りも感じました。それでやっと音読を始めました。急にというわ

けではありませんでしたが、だんだん長文を捉えられるようになって、模試の順位もどんどん上がりました。

僕は、机に向かって勉強するのが嫌いです。特に長期休みの朝はやる気がないので、グノの授業で扱ったプリントを音読しながら、リビングでウロウロしていました。お風呂の中で音読していて、のぼせて頭がクラッとしたこともあります(笑)。**中村**：テストの点数が思っていた以上に取れたり、友達に「英語できるね」と言われたりしたときに、伸びを感じていました。

高2の夏から音読を始めましたが、音読が一番いい復習方法だと思います。英文の復習をするときの注目点としては、単語や文法事項に始まって、筆者の言いたいことが何で、それを主張するためにどんな手法を用いているのか、パラグラフの構成が何なのか、表現の裏にある思いなど、授業で解説されていることは山のようにあります。それを総合的に復習できるのが音読です。

僕の場合、自分でテーマを決めて音読していました。たとえば、プレゼンしている気分を思いこめる、文法事項の確認をしていく、語彙の確認をする、要約をするつもりで読む、などなどです。テーマを絞ると集中力が切れることはなかったし、結果として音読が「総合演習」になって英語の実力向上につながったと思います。

グノーブルの国語

原：高1で古文、高2で現代文、高3で東大国語を受講しました。古文はすごく面白い授業でした。先生が体を張って単語の説明をしてくださいました。たとえば、「あさまし」の解説では、先生が池に飛び込むふりをするのです。その姿が印象に残っています。単語帳を覚えるよりも分かりやすかったです。

現代文の授業も独特でした。東大入試の現代文では、抽象性の高い評論が出題されます。そうした評論は、抽象的なまま捉えるのではなく、具



八尋 誠さん (理II・開成)

体例を頭に思い描くことで読みやすくなります。先生は具体化が上手くて、毎回の授業ではクスッと笑えて楽しかったし、とても参考になりました。

また、先生の提示される解答例は、模擬試験などの完璧な答えではなく、高校生でも作れるレベルの答えでした。簡単な言葉で書かれた解答例だったので、答案作成のお手本にぴったりでした。

佐藤：僕は、高2で古文、高3で東大国語をとりました。

国語も英語と似ていて、古文単語の覚え方も一対一の対応ではなく、語のイメージを先生が体を張って教えてくださいました。丸暗記ではなくイメージが頭に浮かぶ覚え方です。

添削があるところも英語と同じです。現代文の記述も自分では判断が難しいので、授業の始めに添削してもらえると、解説にも身が入るし、復習の際にもとても役立ちました。よく分からない抽象論を具体的な話に置き換えての説明が先生は本当に巧みで、笑えてしまうと同時に、「そういうことか！」と腑に落ちる解説が何度もありました。



奥永 哲哉さん (理II・筑波大附属駒場)

グノーブルの物理

佐藤：物理もグノは最高でした！普通の授業は、「こういう公式があるから、それを使って問題を解きましょう」というスタイルが多いのですが、グノの物理では公式そのものを自分たちで作るところから始まります。ガリレオの古い実験の表をもとに、「佐藤君、ここから何が分かると思う？」という先生からの問いかけがあり、それに対して応答する、という繰り返しで公式を導き出していきます。

奥永：授業は、基本的に対話形式です。自分と先生、もしくは他の生徒と先生で対話しながら授業が進みます。他の生徒と先生の対話を聞いているとき、自分は分かっていたつもりのもので、「この部分はちょっと漏れていた」と思うことが何度もありました。自分と先生の対話だけでは味わえない気づきがありました。他の生徒もいることで、自分ひとりの考え方を超えた思考の広がりを体験できました。

たとえば、「この操作をしたとき、この物体は速くなるか、遅くなるか？」という先生の質問から対話が始まります。ときどき先生の用意した選択肢とは異なる回答が生徒から飛び出すこともあります。用意され



梶塚 時央さん (理I・芝)

ていたのとは別ルートで話が進むと、それが別解につながります。自分とは違うやり方でも考えられることが分かると自分の手札が増えるので、その後に問題を解くときにも応用できます。

佐藤：「佐藤君、光の速度を測りたいけどどうする？」みたいな無茶ぶりも多かったですね(笑)。でも、楽しいです。「物理の本質を知ってほしい」と先生がいつも考えていらっしゃったからです。ガリレオから歴史の流れに沿って授業が進み、受験に縛られない形で、大学の範囲にもどんどん踏み込みます。入試問題を解くための物理ではなく、物理を学ぶための物理でした。

グノーブルの数学

佐藤：高1までの数学には競争原理が活かされていて、生徒たちは競って問題を解きます。解き終わった生徒は手を上げて先生に解法までチェックしてもらい、上手く解けていたらどんどん次にいけて、それが超楽しかったです。「あいつが解き終わったのなら、俺も！」と、集中力が切れません。解説も分かりやすかったです。

原：高2からの数学は戦略的なところが魅力でした。先生は、ベクトルや座標など、ある問題に対する最適なツールを選択できるような授業をしてくださいます。「何となく」で問題を解くのではなく、「これはこうだから、こういうツールを選んで解いていけば絶対に解ける」という戦略を駆使する、巧みな感じの授業でした。板書の量はとても多いですが、それをしっかりノートにまとめて復習することでかなり実力がつきました。数学のセンスがない人でも、グノーブルの数学で技術を習得すれば上位に行けます。

佐藤：戦略的な目を養う指導には本当に感動します。漫然と数学の問題を解くのではなく、自分のことを知るところからスタートします。「こういう図形なら自分はこういうふうに関心があるな」「こういうツールを自分は使いたがる」などの気づ



佐藤 航智さん (理I・駒場東邦)

きがたくさんありました。前半では戦略を全般的に教わり、後半のテスト演習でその戦略を試していくというスタイルでした。論理とセンスを両立させる授業でした。

須藤：高3のIAⅡBの授業では、1学期は、授業中に問題を解かず板書ばかりです。宿題がやや多めだったので、問題演習量はそれでカバーできました。

僕は数学のセンスがないので、言葉で表されている戦略に忠実に従いながら、基本となる型を習得していきました。そういう数学との触れ合い方がIAⅡBにありました。

先生は言葉で丁寧に説明してくださるので、受験の枠組みの数学については全体像が整理されます。板書ノートを見直す中で分野ごとのイメージができあがってきて、それが定着する頃には数学の力がついていました。長期休みに板書ノートを見直したことが効果的でした。

グノーブルの先生

八尋：名前を覚えていただいただけでなく、先生方との親密な関わりがたくさんありました。一人の人として見ていただいていたいなかったら、僕は「お客さん」になっていたと思います。そして、「塾に行くのは権利で、



須藤 佑介さん (理I・開成)

*この学年の英語は、高1までa(最上位)から、a1、a2、a3の設定。高2からa4、a5が順次追加されました。



原 悠輔さん (理I・筑波大附属駒場)

東京大学 理系

— Part 3 —



中村 朝陽さん (理I・早稲田)

義務じゃないから」と授業をサボっていたかもしれません。

グノの先生はフレンドリーで、授業が終わった後も話しかけてくださいます。生徒一人ひとりに対する温かい視線を感じるので、「手を抜けない」と気が引き締まり、モチベーションが上がりました。「先生の期待に応えなきゃ!」と身も引き締まりました。

馬場:先生方はプライベートなことでも相談に乗ってくださいます。高2のときは暁星のメンバーが集団で受けていましたが、恋愛の相談みたいなことから留学についての真面目な相談まで、先生にはいろいろ相談させていただきました。学校からグノに向かうときも友達同士で話がはずんで、毎回の授業に行くのがとても楽しみでした。

佐藤:授業の楽しさは重要です。先生方は、自分の担当教科が本当に大好きなんだと思います。その思いがこもったエネルギッシュな授業が僕の心を打ちました。たとえば、「物理ってこんなに楽しいですよ!」というオーラが出ていますし、英語の先生が英文の解説をしているときにも、話が止まらなくなって楽しそうに語っているのが、僕たちもワクワクしてきます。問題とは関係のな



馬場 拓人さん (理I・暁星)

い方向に話が逸れたり、大学の範囲に踏み込んでも、先生が生き生きしているモチベーションが上がります。

須藤:先生たちの元気がとにかくすごいです。声も大きいです。3人しかいないときの教室でも、至近距離で、熱のこもった声で授業をされていましたね。それほどに熱意のある先生の授業を受けていると、授業を休むのが申し訳なく思えてきました。

先生は顔と名前もすぐに覚えてくださいます。たとえば、講習で1回お会いしただけの先生が、「この前も会ったね!」と別の授業で声をかけてくださいます。

原:グノの先生はフレンドリーなだけでなく、すごく真剣でした。だから、「僕も真剣に応えたい」という気持ちになりました。

東大入試が終わった後、感触が良くなかったのが、僕は落ち込んでいました。もちろん「浪人はしたくない」という気持ちはありました。でも、それと同じくらい、「先生たちに申し訳ない」という気持ちが強かったです。

中村:熱意を持って丁寧に接してくださった先生方に本当に感謝しています。先生の熱意はやる気につながります。真正面から「ガン!」とぶつかってくださったので、こちらも「やるぞ!」という気持ちになりました。

先生ご自身が、「英語は楽しい!」と思っていられることも授業を受けながらよく分かりました。英語の楽しさも伝わりましたし、こちらの気持ちも動きました。

添削も気合を込めて丁寧にしてください。自分がダメなところをいっぱい直していただき、それが復習の指針になりました。

グノでは授業の密度が濃くて延長もあるから確かに体は疲れます。でも、帰り道は心がすごく元気になって、もう次の授業が楽しみでした。**梶塚:**先生方の熱意には僕も感動しました。たとえば、先生は、僕たちの演習の出来が悪いと心の底から悩んでいる表情をされます。先生は、僕たちの出来が悪いから嘆いている



原 悠輔さん (理I・筑波大附属駒場)

んじゃないんです。その結果を踏まえて、僕たちにすべき最善の助言を真剣に考えていらっしゃるんです。参考になりそうな話を一生懸命してくださいました。

逆に、演習の出来が良いと僕たちの成長を心から喜んでくださいます。こっちも嬉しくなって、さらに意欲が湧いてきます。こういうところに心の距離の近さを感じていました。

奥永:教材も面白いものを用意して下さって、解説の仕方も工夫していただけて、総合的に質の高い授業を受けられました。学習の効果が高まるだけじゃなくて、楽しめたり感動もできたりする授業でした。

それから、国語の先生に受験相談したときのことを鮮明に覚えています。僕は経済に興味があったので東大文系志望でした。先生は「国語ができないからやめた方がいい。進振りがあるから理系に進んだら?」とおっしゃいました。国語の先生なら「国語の成績を上げてあげるから安心して」と普通は言います。生徒のためを思って本音で接してくださった先生に本当に感謝しています。



八尋 誠さん (理II・開成)

入塾のきっかけ

小高:高1の冬期講習から英語で入塾しました。同じ部活の友達が3人通っていて、彼女たちが「グノいいよ」と勧めてくれたんです。友達の持っていた宿題の量が多過ぎなかったのも魅力でした。

相川:私は高2の春期講習から英語で通い始めました。きっかけは水道橋の駅でした。グノのポスターの前を友達と通ったとき、その友達が「グノの英語はいいよ」と私に教えてくれました。この言葉がきっかけで講習に参加してみたら、本当にとっても良かったのでそのまま入塾しました。

古田:僕の場合、中学時代は別の塾に通っていましたが、宿題も多かったし、「何か違うな」と思って転塾を考えていました。グノを見つけてきてくれたのは母です。高1の冬期講習を受けてみて、「僕が求めていたのはこれだ!ここは楽しい!」と思って入塾を決めました。

特に授業内演習が画期的でした。答案をその場で添削してもらえるので集中できるし、すぐに解説も聞けるから効果も上がります。もし家で同じだけの宿題をやることを考えたら、集中できずにだらだらやってしまうと思います。

的矢:僕は学校の授業を真面目に聞いていなくて、中学の頃は英文法が苦手でした。「文法を教えてください

あゆむ ひで
相川 英さん (理II・桜蔭)

おだか み わ
小高 美和さん (理I・桜蔭)

ふるた りくた
古田 陸太さん (理I・暁星)

まどや かずき
の矢 知樹さん (理I・筑波大附属駒場)

※ PDF フルバージョンでは、「英語力が伸びたとき」、「グノーブルの先生」、「グノーブルのシステム」もお読みいただけます。

www.gnable.com/gnolet17/



グノでは先生たちが生きている英語から教材を作ってくださいるので、興味を持って演習もできますし、先生がそのテーマについて背景を解説してくださるのも楽しみでした。

古田 陸太さん (理I・暁星)

たい」と思って塾を探しました。「最近グノに通い始めたけど、この塾は他とは違う」という友達の話が学校でちらほら聞いていましたし、親も調べた上でグノを高く評価していました。それが決め手となってグノの冬期講習を受けました。中3でした。

ていなければ英語を好きになれなかっただろうし、受験でも確実に英語が足を引っ張っていたと思います。

グノーブルの評判

古田:暁星では英語と数学でグノの評価が高かったです。学校や塾の先生を、生徒がディスる*のは普通のことですが、グノの先生は例外的に評判が良かったです (笑)。

小高:私たちの学校でも、グノの先生についてはいい評判しか聞きませんでした。むしろ先生たちの話や授業の話で盛り上がっていました。

相川:「グノは宿題が少なくっていいね」とよく言われました。市販の単語帳を使わない英語の勉強も周りから羨ましがられました。他塾に通っている人の中には、学校の授業中に塾の宿題を内職している人たちがいて、「内職しないと終わらない宿題に意味あるのかな」と私は思っていました。

小高:私も作業のように宿題をしている人たちを見て、「これではダメなんじゃないかな?」と感じていました。いやいや終えた宿題の解説を受けに塾に行くのと比べて、グノの場合、「今日も楽しみ」と思って通えました。グノに通っている人は楽しく通っている人が多かったと思います。



相川 英さん (理II・桜蔭)

最初の授業で名前を呼ばれたのには面食らいました (笑)。それ以降、どの先生もすぐに僕たちの名前を覚えてくれるのに気づき、そんなグノ文化の中で安心して勉強ができました。

英語の勉強が面白くなった点も大きいです。グノに入って、一挙に視界が開けた感じです。グノに通っ

*ディスる:「小ばかにする、軽視する」。英語の dis(1980年代に disrespect から生まれた表現)から。

古田：大量の宿題をすべてこなせれば、確かに東大に受かるのかもしれませんが、でも僕は勉強を楽しみませんでした。「やってられるか！」との思いも湧きました。東大入試で必要なのは5教科7科目です。各科目の宿題が大量だったら、僕にはとてもやり切れません。グノは宿題が適量だったし、学習効果は抜群だったので助かりました。

的矢：僕は周りの評判を聞いて宿題が多い塾には通わないようにしていました。だから、宿題のキツさを経験したことはありません(笑)。グノは、宿題に対するストレスが全くありませんでした。授業も楽しかったので、いつも前の方に座っていました。授業に集中できるので効果が上がりました。



古田 陸太さん(理Ⅰ・暁星)

がグノの英語の特長だと思います。特に、単語帳を使った丸暗記の負担がなく、授業内演習の復習をするだけで語彙が増えていくのはありがたかったです。

小高：学校で単語テストがあったので、そのためだけに単語帳をやりました。でも、テストに出る単語はグノでほぼ習得していたので、テスト直前10分くらいの見直しで十分でした。単語帳を丸暗記したことはありませんでした。

的矢：友達に単語帳を暗記して英語ができるようになった人もいます。そんな彼らとグノとの違いは、時間的な効率という面にも表れますが、精神面での負担にも違いが半端なく表れます。

僕にとって単語帳の丸暗記は、精神修行のようなもので、途中で心が折れてしまいます(笑)。長続きさせるのは無理です。グノでは、扱った英文を何度も音読することで単語も身につけていくのですが、音読するときには、精神的に全く負担がかりません。授業を思い出しながら長文を読んで、単語の語源をイメージしたり、先生の冗談を思い出してクスツとしたりします。つまり、音読の時間は楽しい時間です。

単語帳の丸暗記に力を注いでいる人は確かに多くいました。でも、そんな姿を見ても焦りを感じることは

全くありませんでした。僕はグノの先生に教えられた通りに音読をしているうちに自信が持てるようになりました。単語力だけじゃなくて総合的に英語の力がついて、いつの間にか英語をスラスラ読めるようになっていましたから、毎晩寝る前に音読をすれば、「これでまた英語力が伸ばせたとはいえない」と確信できて、負担も不安も感じることなく最後まで過ごすことができました。

古田：市販の単語帳にも使い道はあると思います。僕の場合、高3最初にあまりの語彙力不足を自覚していたので、1冊を短期間で仕上げ、それだけの効果はあったと思います。気分的にも少し楽になりました。ただ、それで語彙力が十分になったわけではなく、それはあくまでもベースに過ぎなくて、授業で扱う英文に触れたり、先生の解説を受けたり、繰り返してやった音読やシャドーイングを通して、英単語が自分のものになりました。

音声教材の充実という点もグノの特長で、毎回の授業で扱う英文に必ず音声教材があります。僕もシャドーイングを何度も繰り返していたので、英文がたくさん頭の中に残りました。今でも2、3本頭の中に流れます。受験が終わったのに、夢でも英文が出てくるくらいです(笑)。すぐに思い出せるフレーズが頭の中



的矢 知樹さん(理Ⅰ・筑波大附属駒場)

にいくつもストックされていると、自由英作文でそのまま利用できます。とても便利でした。

小高：私はやっぱり単語帳はダメです。グノに入る前にいくつか買いましたが、すべて最初の1ページだけが完璧。でも、その先に進むのが嫌になってやめてしまいました。グノに出合えて本当に良かったと思っています。

グノではさまざまな話題の英文を毎週用意していただけて、どれもが興味を持てるものばかりでした。そんな英文を読み返すのは第一に楽しいです。それを音読していれば、偏りなく、楽に単語を覚えられます。継続するのも全然負担ではありませんでした。

相川：単に覚えやすいだけじゃなくて、グノのやり方は応用が利きます。語源を押さえておくと、見たことない単語に出会っても、文脈と合わせて、「この語根プラスこの語尾なら、こういう意味かな？」と推測できます。

一つの単語にいくつもの派生した意味がある場合でも、語源が分かると理解しやすくて頭に残りやすくなります。グノの授業では、語源からの意味の広がりや黒板に書かれて、ときには先生が体を使って説明してください。見ているだけでも楽しいし、印象にも残ります。



相川 英さん(理Ⅱ・桜蔭)

教材になる英文

的矢：つまらない勉強は続きません。僕の場合、無理に気持ちを勉強に向かわせても30分やったら集中力は切れてしまって1時間は遊ぶというような、受験生とは思えないやり方しかできませんでした。

グノの英語は何時間でも続けられました。たとえば、語源を調べて一人で感心しながら、時が経つのも忘れて熱中してしまいました。音読もいつまでも続けていられました。グノの授業で扱った英文を音読するのですが、ストックしてある中から面白い英文が次から次に出てくるので、延々と読んでいても飽きないのです。

小高：社会的なテーマや科学の話題、哲学の話など、さまざまなジャンルの英文を先生が用意してくださいました。私は文学的なエッセイや小説が特に好きでした。展開にワクワクさせられたり、登場人物の心理状態が面白い物語を、英語でたくさん読めました。東大では、語数の多い物語をバツと読まなければならない問題が出題されることもあり、そういう問題にもしっかり対応できていました。

古田：確かに面白い英文が多かったですね。あんなに面白い文章の先生はよく見つけてこられるものだと思います。日本のメディアでニュースになる前にグノで情報を仕入れたこともありました。

普通の受験塾だと、扱う英文は過去の入試問題ばかりだと思います。グノでは先生たちが生きている英語から教材を作ってくださいるので、興味を持って演習もできますし、先生がそのテーマについて背景を解説してくださいのも楽しみでした。復習で読み込みもしますから記憶にもしっかり残ります。僕が受けた私立の大学では、「スローリーディング」に関する英文が出ました。同じ話題をグノの教材で読んでいたので、知識は既がありました。グノの英文と入試問題の英文は違っていても、筆者の言いたいことは同じでした。だから、問題を読みながら、「来た！勝った！」と心の中で叫びました(笑)。

相川：これは個人的な感想なのですが、東大を受けていたときには、英文を読んでいて面白かったのです。でも、私が受けた私立大学の英文は少しも楽しめませんでした。グノではいつも楽しめる英文が用意されていたので、あらためて恵まれていたのだと思います。

家でテレビを見ていなかったのでも、授業で初めてニュースを知ることよくありました。たとえば、首相官邸にドローンが落下していたニュースもグノの教材で知りました。

的矢：直近のニュース記事が英語のテキストになっていて、いつも感心していました。今年はグノの英語でAIの話題を扱うんじゃないですか？既に先生たちはAIに関する教材を準備していそうな気がします。



小高 美和さん(理Ⅰ・桜蔭)

グノーブルの国語

古田：高3で東大国語を受講していましたが、非常に役立ちました。特に、「筆者の主張を正確に把握した上で、それを自分の言葉で採点者に伝える」という基本姿勢が身につきました。

現代文を受講した後、英語の要約の点数が上がりました。数学の記述でも、「論理関係がおかしい」「ここが足りない」などの減点が激減しました。全教科の成績アップにつながりました。テクニックが身についたというよりも、僕自身が成長できたという感じです。

後輩へのメッセージ

的矢：グノはすごくいい塾でした。英語が、「無理に自分を追い込んで集中する科目」から、「楽しいからいつまでもやっていた科目」に変わりました。受験が近づいても、受験だからという追い込まれ方ではなく、最後まで楽しく英語に取り組んで成績も伴いました。英語はグノを



小高 美和さん(理Ⅰ・桜蔭)

英単語の覚え方

小高：市販の単語帳を使わずに、語源にさかのぼって単語を教えてくださいました。それから、音読をものすごく勧めてくれるのもグノの特長です。私は音読に取り組むだけでなく、リスニングやシャドーイングにも力を入れました。毎晩寝る前にやっていました。

相川：「単語帳を使わない」「語源から教えてくれる」「音読」。これら

信じていれば大丈夫だと断言できます。

僕の英語の勉強を振り返ると、音読していないときは英語の成績が下がって、音読しているときは成績が上がりました。確実に英語の実力が伸びて安定するので、音読をしっかりすることが大切です。

相川：私にとっても、受験勉強という感覚があまりないまま、楽しく成績を上げられる塾でした。グノはみんな集中して授業に参加しているし、宿題もちょうどいい量で、本当に楽しくて、まるでオアシスのようでした。

具体的なアドバイスとしては、やっぱり音読です。直前期までリスニングが苦手だったので、2月からシャドーイングも始めたら、入試本番で成果が出ました。音読に加えて、シャドーイングにも挑戦してみてください。

古田：授業内演習に関してですが、量が多くて時間が短いので解き終わらないことは全然気にする必要はありません。とはいえ、東大入試では時間制限がきつめなので、グノの演習で時間を意識しておくと思えます。

グノで勉強していると勉強が苦にならなくなります。高いレベルの演習を重ねられるので自信がきます。雰囲気がいいので楽しく勉強できます。楽しく勉強しているうちに、気がついたら受かっています。グノはそういう塾です。

小高：私も、グノに来ること自体が楽しくて、授業を受けた後に家で音読するのも楽しくて、そのうちに、受験を意識せずに英語を読めるようになりました。

長い英文をサッと読める力をグノでつけてしまえば東大の英語は勝ちだと、私は個人的には思っています。読む時間を短縮できれば、考えることや、記述答案の作成に時間を使えるからです。グノを信じて、授業を楽しんで、グノについていけば、東大の問題が易しく感じられるはずです。



的矢 知樹さん (理I・筑波大附属駒場)



古田 陸太さん (理I・暁星)

10期生 合格者インタビュー

国公立・慶應大学 医学部

【座談会出席者】 (五十音順、本文中敬称略)

Part 1



かねだ けんいち
金田 賢一さん
(横浜市立大・駒場東邦)



しのほら ふくすけ
篠原 福助さん
(慶應義塾大 [特待]・開成)



す せき ひろ
須関 大さん
(千葉大・開成)



ふじい しょうたろう
藤井 昇太郎さん
(慶應義塾大・麻布)



ほしあい あきひさ
星合 亮尚さん
(慶應義塾大・暁星)



よこはま ひかる
横濱 堯さん
(筑波大・暁星)

Part 2



えびな こうたろう
海老名 洸太朗さん
(東京医科歯科大・学習院)



きむら えり
木村 恵理さん
(山形大・白百合学園)



きりかえ ひなこ
切替 日奈子さん
(東北大 [AO 入試]・
渋谷教育学園渋谷)



すずき りょうた
鈴木 涼太さん
(千葉大・駒場東邦)



つちもち ゆり
土持 有理さん
(山形大・雙葉)

国公立・慶應大学 医学部

—Part 1—

かねだ けんいち 金田 賢一さん(横浜市立大・駒場東邦)	ふじい しょうたろう 藤井 昇太郎さん(慶應義塾大・麻布)
しのはら ふくすけ 篠原 福助さん(慶應義塾大[特待]・開成)	ほしあい あきひさ 星合 亮尚さん(慶應義塾大・暁星)
すせき ひろ 須関 大さん(千葉大・開成)	よこはまひかる 横濱 亮さん(筑波大・暁星)

※ PDF フルバージョンでは、「グノーブルの英語で学んだこと」、「グノーブルの先生方」、「グノーブルのシステム」、「医学部を目指す後輩へのメッセージ」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet17/



グノの数学がなかったら、医学部に受かっていなかったはずですよ。

僕はグノのおかげで数Ⅲが武器になりました。

扱う問題もレベルが高く、応用力も鍛えられました。

金田 賢一さん(横浜市立大・駒場東邦)

医学部を志望した理由

横濱: 病気や障害と向き合う人に、医師は大きな影響力を持つ存在です。自分の家族の経験から、患者やその家族を勇気づけられるような医師になりたいと強く思うようになりました。将来は臨床医を目指しています。

星合: 暁星には医師の息子さんが多く、進路を決める時期になると、同級生たちは「医者になりたい」と言って受験勉強を始めます。そうした雰囲気もあって「僕も医者になろうかな」と思ったのが医学部志望のきっかけです。

高2のとき、祖父が病気になり、お世話になった医師の姿を見て、「医師になりたい!」という決意が改めて固まりました。

須関: 僕は父が医師なので、小さい頃から「医師になる」という選択肢はありました。ドラマなどを見て、「カッコいい」という憧れも持っていました。

病気や怪我で苦しむ人々を治療して、彼らの心を動かせる医師を目指しています。たとえば音楽には、心を和ませたり気持ちを前向きにさせたりする効果がありますが、それと同じような役割を果たしたいと思っています。

篠原: 僕は小さい頃からサッカーをやっていて、怪我で病院に行く機会が多かったのです。「将来何をした

いか?」と考えたとき、医師という選択肢が自然と浮かびました。

自分なりに医師という仕事について調べて、患者の体だけでなく心もケアしなければならぬし、患者との信頼関係が大切だということも分かりました。大変な職業だからこそ、やりがいもあると思います。



金田 賢一さん(横浜市立大・駒場東邦)

藤井: 患者の心のケアは大切だと思っています。特に子どもの頃の病気や怪我は、大きな苦しみとして人生にのしかかります。僕自身が体の弱い子どもだったので、僕と同じ境遇の子どもたちを適切にケアして彼

らの苦しみを軽減したいと思っています。

金田: 僕も自分の経験がきっかけで医師を志しました。高1のとき大病院で手術を受けました。執刀医の先生が丁寧に説明してくださったり、痛みがひどいときに麻酔科の先生が真夜中にもすぐ来てくださったりして、その対応に安心感がありました。医師の姿に感銘を受けました。

入塾のきっかけ

横濱: 中1の春に入塾しました。友人のお母さんに「グノーブルがいいわよ」と勧められ、その友人といっしょに通おうと、迷うことなくグノに決めました。

英語で入塾して、数学は、最初は講習だけ受講しました。中2からは英数両方とも通常授業を受けてきました。

藤井: 僕も友人のお母さんに勧められ、中3まで通っていた塾から高1のときにグノに転塾しました。グノは宿題で拘束しないし、英単語の丸覚えもありません。そういうところも決め手でした。

グノの先生は、楽しそうに生き生きと授業をされます。そんな先生のことを中心に、麻布のグノ生は学校でもグノの話題で盛り上がり笑って合っていました。

星合: 僕は高2になって受験を意識し始めたときに入塾しました。学年の成績上位層にはグノ生がたくさんいました。しかもグノ生は全員、「今日はグノだ」とにこやかに話していて、とても楽しそうでした。グノ生以外の人たちも「グノ生はみんなできるよね」と話しているのを聞いて、「自分もグノに入ったら伸びそうだな」と思ったのです。

横濱: 英語を受講しているグノ生たちは、成績が急上昇していました。だから、暁星では「グノすごいな」という話題で持ちきりでした。

金田: 駒東でも、成績上位者にグノ生が多かったので、彼らに憧れてグノに入塾する人が後を絶ちませんでした。僕もその一人で高1の冬に入塾しました。

当時の僕は学校での英語の成績がだいぶ安定してきて、「学校プラスアルファで英語の力を伸ばしたいな」と思っていました。高1の夏に手術を受けた後、「医師になりたい」という目標もできたので、勉強を頑張りはじめた時期でもありました。

須関: 僕も高1の冬に入塾しました。学校で実力テストが始まって、定期試験とは違って点数をとれず、「そろそろ受験を視野に入れて塾に通った方がいいのかな」と感じました。塾の評判を友達に聞いたりネットで調べたりしていたところ、グノの英



篠原 福助さん(慶應義塾大[特待]・開成)



須関 大さん(千葉大・開成)

語の方針が目にとまりました。僕は暗記が苦手なので、英文を読みながら単語や文法を覚えるという勉強法が魅力的でした。

学校では模試の上位層にグノ生が多くて、他塾の人たちも「英語はグノが強い」と口にしていました。**篠原:** 確かに開成では「グノは英語が強い」と評判でした。実際グノには友達がたくさん通っていて、彼らはみんな楽しそうでした。彼らから、宿題の量が適切だという話も聞いていました。それで僕も、高1の初めに英語と数学でグノに入りました。「入ったらどんな感じかな?」と期待を持ってグノに入って、結果は期待以上でした。

グノーブルの授業の魅力

金田: 高1の前半に通っていた塾は大人数の授業で、生徒をきちんと見てくれませんでした。その点、グノは、先生が生徒一人ひとりに関心を示してくれます。添削もしてもらえ、授業中も指名してくれます。それから、グノの授業では、長時間なのに本当に一生懸命になれたので、グノ生同士の一体感が生まれていました。

横濱: 教室に教壇がないのもグノの特長でした。グノの先生は生徒と同じ目線で授業してくれますから親近

感が持てます。他塾には教壇があって、一段上から先生が授業をするので、見下ろされているように感じられて、そこに距離が生まれてしまいます。

藤井: 授業のときは結構みんな前に座っていて、それで物理的に先生との距離が近いなということと、先生たちが毎回添削してくれているので、生徒のことをよく分かりながら授業をしてくれるという意味でも近いと思います。勉強以外の個人的な話を先生としている生徒もいて、それが気軽にできる場所にもグノらしさがあると思います。

星合: グノの授業は先生と生徒との関係で成り立っています。先生が一方的にしゃべって、生徒が聞いているだけではないのです。

たとえば数学の授業では、生徒たちが解いてきた宿題の結果について、「この人はこのようにできていて、このやり方はいいよね」と先生が講評してください。「仲間たちがどのくらいできるのか?何ができていて何ができていないのか?どんな解き方をしているのか?」を知りたいことは、自分の勉強にとっても参考になります。一人で勉強に打ち込んでいるだけでは得られないメリットでした。

横濱: 英語では「単語帳不要」という方針で、単語を語源から教えてく



藤井 昇太郎さん(慶應義塾大・麻布)

れるのも斬新でした。単語帳を暗記する時間を理科など他科目の勉強時間に回せたのが良かったです。

須関: 他塾では単語帳のチェックテストが毎週あるという話をよく耳にしました。毎週単語を暗記するのは負担になるので、それが無いのは楽でした。それなのに、グノの授業を受けていると、英文を読めるようになって自然に無理なく語彙が増えていて、「こんな勉強法もある」と感激していました。

篠原: 授業中に解いた問題を、すぐに添削してもらえて、すぐに解説を受けられるのが僕としては一番嬉しかったです。他塾だと、宿題をやってきて塾でその解説というスタイルだと思います。グノのやり方だと、すぐにコメントがもらえてモチベーションが上がるし、課題も的確に指摘してもらえ、疑問点が新鮮なうちに解説してもらえます。授業に向かう気持ちに大きな違いができます。

市販の単語帳を覚えるのは、僕も苦手だったので、グノの方針が肌に合っていました。単語帳の暗記は、印象に残らないし不毛だと思います。それに対して、グノの授業で扱う英文はとても面白くて、楽しみながら何度も音読していると、英単語が自然と頭の中に入ってくるので

す。そもそも僕は「単語を覚えよう」とは一切考えていませんでした。日本語を覚えようとしなくてもよく使われる言葉は頭に入っていきように、面白い英文をどんどん楽しんで読んでいけば語彙は増えると考えていました。

英語の音読

金田: グノは音読にウェイトを置いています。学校でも「音読は大切」と言われていましたが、グノほど徹底して音読を勧めて、効果のあるやり方を明快地指導してくれるところは他にないと思います。

僕にも音読は合っていましたね。音読をしていけば、無理なく語彙も身につくし、読むスピードも正確さも上がります。通学の電車の中でマスクをつけて音読しました。行きの30分と帰りの30分が音読の時間でした。

グノの授業で扱う英文はとても興味を持てるものばかりだったし、先生の丁寧な解説を聞いていると深い内容まで分かって英文がさらに面白いものに変っているの、楽しく音読を続けられました。

篠原: 僕もかなり音読をやっていました。夜寝る前に、口の体操もかねて音読しました。最初は意味が分かっていないところで詰まりますが、何回か音読していくうちにスラスラ読めるようになります。テキストを見なくても英文が出てくるくらい読み込みました。

どんなに夜遅くても音読だけはやりました。そしていつしか「音読をこれだけやっておけば落ちないだろう」と思えるようになりました。センター試験直前は英語ではなく国語や社会に力を入れましたが、「二次での英語力が落ちたら嫌だな」と思って音読だけは継続しました。

藤井: 音読を習慣化すると、次の日に英語が伸びている気がしました。逆に、音読をしない日があると不安になりそうなので、僕もとにかくルーティーンとして毎日繰り返しました。



横濱 亮さん (筑波大・暁星)

星合: 僕は高2の冬に英語を受講し始めましたが、クラスはa4*からのスタートで、「この塾の言うことをきっちり守って上のクラスに行こう!」とやる気を持って始めました。グノで英語を勉強している学校の友人を見てみると、全員成績がいいのに苦しそうではなく、「音読にはきっと何かがあるはずだ」と音読を信じていました。

でも、最初のうちは、音読しても内容が掴めなかったので自分なりの工夫をしました。まずは、一文ずつ英語を読んで和訳を言って、また英文を一文読んで和訳を言ってと続けてみました。慣れてきたら、それを一段落ごとにして、そうしているうちに、和訳を言ってみなくても内容を意識して最後まで読み切れるようになりました。

当初は、ひとつの文章を10回くらいは読みました。後半は理科などの勉強で忙しくなったので、ひとつの文章を読むのが5回くらいになりましたが、どんなにつらい日でも音読は徹底してやりました。

横濱: 中2から中3にかけて毎日音読をしていましたが、高1と高2の時期に、部活に重きを置いているうちに音読の習慣を失ってしまいました。それでも、クラスが下がることもなかったの、受験学年になってあまり音読をしていませんでした。そうしたら授業中の演習で0点

や2点を連発するようになってしまいました。やっと危機感を抱きました。

夏休みには1日1時間は音読に取り組みましたが、音読を続けていけば、実際に大きな効果があると思います。以前に比べて格段に英文を正確に読めるようになりました。

須関: 僕が音読を始めたのは高3になってからです。その意味では、みんなと比べたら熱心ではなかったかもしれませんが、毎日必ず、学校へ通っていた時期は夜に音読して、学校が無くなった受験直前期は昼と夜に1回ずつ音読しました。グノの英文は面白いので、内容を楽しみながら読めたのは良かったです。



金田 賢一さん (横浜市立大・駒場東邦)

英語力の伸びや面白さを感じたとき

横濱: 英語が伸びたと感じたときは2回あります。1回目は中3のときです。音読をたくさんやっていたので、英語の文章を読めるようになって、学校のテストでも点数がアップしました。意味が取れてスラスラ読めたので楽しかったです。

その後、音読をサボっていたら、難度が上がった英文に歯が立たなくなってしまいました。高3の夏休みに音読を再開したら、レベルが高くて英文を読むスピードが速くなって、「やっぱり英語は楽しい」と感じました。英語は勉強という感覚があまりなく、将来も使えるスキルなので興味も持てました。

藤井: 僕の場合、高1で入塾したときは本当に英語ができなくて、「英語は要らない言語だ!」と嫌悪していたくらいです(笑)。もちろん読解は全然できませんでした。でも、しっかり文法事項を学んでいくうち

に「知識が定着しているな」という手応えがあって、英文も徐々に読めるようになりました。

英語を楽しんだのは、高3の後半です。英語の成績が安定してきて、英文をスラスラ読めるようになったからです。何回も音読して文章を理解するという勉強法が効果を発揮しました。

須関: グノに来て結構早い段階から、単語の解説はいつも面白いと思っていました。単語の語源を理解すると、一見全く異なる単語同士に共通点が見えてきて、それにはいつも好奇心を刺激されます。

でも、英語の力が伸びたと思えたのは、高3の直前講習でした。それまでは、演習時間内に全然解き終わらないし、答えも的外れなことが多くて、「英語はダメだ。もう無理かな」と諦めかけていました。直前講習の演習では余裕を持って英文を読めるようになっていて正解率も良かったです。このとき「僕は意外とできる!」と自信を持ってました。

金田: 僕は、グノでは英語が劇的に伸びたという経験はないです。グノには英語の優秀な人がたくさんいるし、演習もいつも10点中3点か2点で「僕は英語が全然できないな」と悲観していました。

でも、模試では手応えを味わえたと、点数にも表れていたのが確実に力がついていたと思います。特に和訳問題では「できた」という感覚を何度も味わいました。単語の訳を一对一の対応ではなく、「語源を踏まえて単語の意味を文脈で捉える」というのは、授業中に相当に鍛えられていましたから、それが功を奏していました。

星合: a4からクラスが上がっていく中で英語の伸びを感じていました。aに行くまでは、英語という科目の勉強をして得点力が伸びることの嬉しさを味わっていたのです。

aに上がって受けた授業の衝撃は今も忘れられません。その授業は英語自体を教えるというよりも、英語で教養を教える授業だったからです。話題に広がりがありました。それまでずっと「英語を勉強しよう」と頑張っていたのですが、「英文の内



篠原 福助さん (慶應義塾大 [特待]・開成)

容を理解して、自分の教養を深めるために英語を使いこなせるようになる」という意識にシフトチェンジしました。その瞬間に「英語は面白い!英語じゃないと知ることのできない面白いものがある!」と痛感し、以来英語を学ぶのが苦ではなくなりました。

篠原: 高1で入塾したときは下のクラスだったのですが、とにかく宿題と復習を頑張ったらすぐにaまで上がれました。そのときの先生に音読の習慣をつけてもらいました。英語の土台もその頃に築けました。

高3のときは、僕は先生の話を聞くために英語の授業に出席していました。英語力にさらに磨きをかけたり、英語で教養を深めたりするため、英語の問題を解くためではありませんでした。「どんな英文に出合えるんだろう。どんな興味深い話が聞けるんだろう」と、毎週の授業がとても楽しみでした。

グノーブルの数学

横濱: 中2からは数学でも通常授業に通い始めました。先生の親しみやすさと距離の近さは大きなメリットでした。

授業で扱う問題の選択も適切でした。いくつものテーマがひとつの問題に含まれていることもあって、そういう問題は解いていても面白いし、復習を通していろいろ学べました。他塾に通っている人の中には予習に苦勞している人もいましたが、グノは復習だけで済んだので、家庭学習の面でも効率的でした。

篠原: 高1のとき、「数学の先生が面白い」という評判を聞いて、その



星合 亮尚さん (慶應義塾大・暁星)

*この学年の英語は、高1までa(最上位)から、a1、a2、a3の設定。高2からa4、a5が順次追加されました。

授業を受けたいがために数学も受講しました。授業中に問題を解いてその場で見てもらうというスタイルも好きでした。自分のペースで進めるし、競い合う感覚もあるので夢中になれます。

実際に先生のキャラクターも明るくて、それも楽しかったのですが、質のいい問題がたくさん選ばれていたの、どんどん解くことを楽しめたのだと思います。

僕は、問題を解いてから何日も経って解説を受けるのが嫌でした。分からない状態を引きずりたくなかったのです。だから、その場で演習できるグノのスタイルが合っていました。

星合：高2のときは数学が極端にできませんでした。学校で数Ⅲがスタートしたこともあり、「数学を固めた方がいいな」と思って塾選びをしました。そして、数学からグノに入塾したのです。

高2の授業は、とにかく一人ひとりのペースでどんどん問題を解いて、必要な部分では先生の解説に耳を傾けて、分かっている先に進んでいく、自分の実力に合わせて進度を調整するシステムでした。個別の問題の解き方や、基本になる計算力を、生徒のペースで鍛えていける授業だったと思います。

高3は、個別に問題に当たって行くのではなく、受験で必要な数学全体の概念を頭の中に構築していこうとするので、授業の形式はガラッと変わりました。公式丸暗記の数学ではなく、状況に合わせて戦略を練っていくという、より高次の視点に立つ数学を学ぶための授業でした。「敵を知って戦術を選ぶ」「己を知ってさらに高みを目指す」という方法論



須関 大さん (千葉大・開成)

に引き込まれました。以来数学への取り組み方が変わりました。

高3のカリキュラムに入った最初の授業では、これまでの数学観を崩さなくては行けないぐらいの衝撃もありましたが、僕自身「数学ができる」とは思っていませんでしたので、先生の言葉を真摯に受け止め、数学をやり直すつもりで奮起しました。それまでのやり方に固執するよりも、プロの先生のやり方を理解して、それを体感した方が学ぶことが多いと考えていました。

金田：グノの数学がなかったら、医学部に受かっていなかったはず。とても感謝しています。

特に数Ⅲの先生はとても分かりやすく教えてくださいました。学校では「数Ⅲは難しい」と嘆く人もいましたが、僕はグノのおかげで数Ⅲが武器になりました。扱う問題もレベルが高く、応用力も鍛えられました。

グノーブルの国語

横濱：高1のときに古文を受講しました。先生が体を張って授業してくださいだったのが印象的でした。古文単語も丸暗記ではなく、イメージを大切に覚え方を教えていただけだったので、記憶に残りやすかったです。

須関：小論文の授業はとても楽しかったです。僕はもともと考えることが好きで、「こういう原因があるからこうなる。だったら、こういう対策を立てればいいのか？」という感じで、普段からさまざまなことを考えています。

小論文の授業では社会的な問題に当てはめながら頭を使えました。授業に行くたびに新しい問題が提示されて、その問題点や原因、視点を変えた捉え方や考え方が聞けました。毎回、新しい世界が目の前に広がっていく感覚があって楽しかったです。

与えられるテーマに対して、もし授業中に書き切れない場合は持ち帰っていましたが、帰りの電車の中でも夢中になってあれこれ考え込んで

ていました。考えているうちに新しいアイデアが見つかったり、考え方の新たな道筋が見えたりして、本当に楽しかったです。



藤井 昇太郎さん (慶應義塾大・麻布)

医学部の面接について

金田：横市(横浜市立大学)よりも私立の方が面接はやりやすかったですね。答えにくい質問もありましたが、答えの内容よりも、きちんとコミュニケーションを取れることが重要だと思います。面接は、医師としての適性を見ることが目的のようです。面接のために特別な対策は要らないのではないでしょうか。

藤井：慶應はかなり準備していききました。前年度や前々年度の質問に対して自分の回答を書き出して、それを頭に入れておきましたが、一問か二問しか一致しませんでした。予想外の質問の中には、「医者以外だったら何になりたいか?」「友人以外の人にはどのように思われているか?」などの質問がありました。

須関：千葉の面接は3回です。1回ごとにテーマがあります。短時間でそのテーマについて問題点と解説策を考える時間が与えられ、3分間で話します。

グノの小論文の授業で培った考え方や手法が丸々頭に入っていたので、何も対策しませんでした。授業が本当に役立ちました。

面接の後半では、医師の志望理由や大学の志望理由など、あらかじめ答えを準備していたことが聞かれました。

篠原：僕は慶應と医科歯科を受けました。医科歯科は不適格者を排除するためだけに面接を行っている気がしました。面接時間は5分で、聞か

れたことも医学部の志望動機や学校行事のことだけでした。対策はしていませんでした。

慶應ではいろいろ聞かれました。慶應の面接は2回なのに、僕の場合はなぜか3回。「君は大学に入ったらどういう役割を担いたいのか?」というオーソドックスな質問に対しては、運動会で応援団長をやった経験について話しました。「開成にあって麻布にないものは?」という意味不明な質問もありました(笑)。

特に多く聞かれたのは奨学金についてでした。僕が奨学金の候補になったからです。「慶應と医科歯科の両方に受かった場合どうするか?」と質問されて、僕は「金銭面から医科歯科にします」と答えました。そうしたら、「奨学金があるけどどうする?」とさらに聞かれました。

僕は、医学部の志望動機、大学の志望動機、自分の長所・短所くらいしか面接の質問対策をしていませんでした。普通にコミュニケーションを取れば問題はないと考えていました。詰まっても焦らず「一度考えさせてください」と言えれば問題ないと思います。

星合：僕は4校受けました。最初の面接は順天堂でした。過去問を確認して傾向を把握してから臨みました。順天堂は、どんな質問でも「3つ答えなさい」なのです。そのため、質問に対しては3つずつ答えを用意するという練習をしていました。

慈恵(東京慈恵会医科大学)はグループ面接で、何が質問されるかわからないので、準備は特にしませんでした。実際の面接では、ひとつの問題に対して多角的な視点から問



星合 亮尚さん (慶應義塾大・暁星)

かける質問ばかりでした。「これに対してはどう思うか?」という質問がいくつもなされて、最後に「それらの視点を全部合わせて考えるとどうですか?」と聞かれました。

医科歯科は志望動機とクラブ活動を聞かれたくらいで終わりました。面接を重視していない印象でした。慶應の一次面接は、志望動機や高校のことを重点的に聞かれました。僕は、スキー部の合宿を計画する担当だったので、そのときにやったことを書類に書いておきました。そこをいろいろ質問されました。二次面接は志望動機を聞かれた後、時間が余ってしまったみたいでした。「逆に聞きたいことはありますか?」と面接官に質問されたので、「入学までにやることはありますか?」と聞いてみました。そうしたら、面接官に「遊んでいていいよ。医者は俊敏性が大切だから、大学に入ってからババッとやる力が大事だから」と言われました(笑)。

4校の面接を振り返ってみると、どこの医学部も、聞きたいのは志望理由です。志望理由を明確に答えた後は、柔軟に対応すれば大丈夫です。突拍子のない質問はそこに重点を置いていなさそうなので、的確に質問に答えられればいいのだと思います。**横濱：**筑波の面接は配点が200点ありますが、数分で終わりました。何を見られたのかはよく分かりませんでした。

たとえば、調査書の総合活動のところ、北海道に行った修学旅行に関して書かれていたらしく、「アイヌの民族博物館に行ったとありますが、博物館で何をしましたか?」と質問されました。僕は答えを用意していませんでしたし、博物館のことは記憶になかったので困りました。そこで、「すみません。ちょっと覚えていません」と答えたら、「ああ、そうなの」とそれ以上は聞かれませんでした。こんなやりとりでも無事に合格しました。

日医(日本医科大学)では、30分のグループ面接で、僕は緊張して二言か三言しか発言できず、しかも議論を逸らしてしまいました。それでも合格したので、日医も面接を重視

していないみたいです。

筑波も日医も面接で失敗しましたが、合否に影響はありませんでした。緊張しても気負わずに面接に臨めば大丈夫だと思います。



横濱 亮さん (筑波大・暁星)

国立大学 医学部

—Part 2—

えびな こうたろう
海老名 洸太郎さん(東京医科歯科大・学習院)

すずき りょうた
鈴木 涼太さん(千葉大・駒場東邦)

きむら えり
木村 恵理さん(山形大・白百合学園)

つちもち ゆり
土持 有理さん(山形大・雙葉)

きりかえ ひなこ
切替 日奈子さん(東北大 [AO 入試]・渋谷教育学園渋谷)

※ PDF フルバージョンでは、「医学部を志望した理由」、「医系英語対策は必要か?」、「英語力の伸びや楽しさを感じたとき」、「グノーブルの魅力」もお読みいただけます。

www.gnoble.com/gnolet17/



先生たちは最初の授業ですぐに名前を覚えてくださいます。

「質問できることはないかな? 質問に行って個人的に先生と話したい!」と

思うくらい、先生を信頼していました。

切替 日奈子さん(東北大 [AO 入試]・渋谷教育学園渋谷)

入塾のきっかけ

土持: 英語が苦手だったので、中学の後半から塾を探していました。あちこちで季節講習に通ってみました。他のところは教え方も一方的で、私には合いませんでした。グノは授業中に添削があり、先生とのやり取りも活発で、先生が一人ひとり見てくださっているところがとても気に入って、高2の春に入塾しました。

雙葉では、「グノに通っている子は成績がいい」と評判です。グノに通っていた先輩が東大に合格したり、模試で高得点を取っているのもグノ生だったり、実績がたくさんあったからです。

木村: 中学受験の頃にもらったチラシがきっかけでグノを知りました。中学受験終了後の私は、「勉強したくない」という状態に陥っていました。そんな時期に、掃除をしていた親がそのチラシを見つけて、「信頼できそうだから入ってみたら?」と私に勧めてきたのです。親は、勉強しない私を見て危機感を募らせていて、「勉強を好きになってもらいたい」と思っていたそうです。

学校の中で成績がとても良かった同級生にも背中を押されました。中学受験の後で、私は勉強する気をなくしていたのに、その友達は勉強に熱心で、その理由を尋ねたら、「グノは楽しいから」と言っていたんです。それで、私も英語と数学でグノ

に通い始めました。

切替: 私は新高3の冬期講習から、英語と数学で入塾しました。中学受験のために通った塾はときどきサボってしまいました。今度は、せめて学校や家から通いやすい場所にある塾にしようと考えて選びました。私のクラスの友達が何人もグノに



海老名 洸太郎さん(東京医科歯科大・学習院)

通っていて、「グノの英語はとていいよ」といつも話していたのも入塾の動機になりました。

鈴木: 高1になる前に受験を意識し始めて、グノのフレッシュ講座という新高1生用の春期講習で英語

と数学を受講しました。英語は不得意だったので、EGGS*1を受講して基礎固めを目指しました。その授業が分かりやすく楽しかったので通常授業への入塾を決めました。

駒東では、グノの英語の評判は高く、通っている人がたくさんいました。数学と物理も一定数の人が通っていて、周りと一緒に勉強するのが楽しくて、それで順調に成績も上がりました。

海老名: 僕も高1で入塾しました。その前からグノが気にはなっていました。小6の終わり頃には、母がグノの説明会に参加していましたが、とても好印象だったらしいのですが、僕は中学受験をしていませんし、進学校でもないので、その時には見送ることになりました。

新高1になって受験をする気持ちが固まった頃に、あらためてグノを思い出しました。ところが、入室テストを受けてみたらa3*2でした。中学時代は英検の勉強もしていて英語は得意だと思っていたので、かなり落ち込みましたが、授業がとても良かったので、心を切り替えて頑張ることにしました。

入塾後、僕が周りに「グノいいよ」と言まくったこともあって(笑)、学習院でも受験を考えている人たちの間にグノは広まっていきました。

英単語の習得法

木村: 語源で単語を覚えていくのが印象的でした。その単語だけに留まらず、関連する単語がどんどんつながっていき、意外な発見の連続でした。

単語の語源を自分でも調べる癖ができました。未知の単語に出合ったら、その語の成り立ちと、使われている文脈から意味を推測して、答え合わせのために辞書で確認するのが楽しみになりました。おかげで、初見の単語に臆することもなくなりました。

市販の単語帳は使いませんでした。単語帳で暗記しようとしても全然頭に入らなくて。学校で配られた単語帳を単語テストの前に眺めたくらいです。私は、「どうしてみんな、単語帳の暗記を頑張れるのだろう?」と周りの人たちを見ていました。

切替: 単語を語源で覚えるのはとても面白かったです。授業の復習でも、語源を調べるのについて時間をかけていました。結果として、かなり語彙力を高められたと思います。

私は高3でグノに入ったので、それまでは単語帳を使っていました。でも、グノの授業を受けるようになってからは、暗記の必要性を感じなくなりました。単語帳は、授業のメモ帳代わりにして、授業で先生がおっしゃったことをそこに書き込ん



木村 恵理さん(山形大・白百合学園)

で、復習のときは索引で調べながら活用していました。

土持: 私の単語の覚え方は、授業で扱った英文の読み返しでした。必要な語にはマーカーでマークしたり、ルーズリーフにまとめたりしていましたが、基本的には、英文を何度も音読するやり方だけで、十分な語彙力が身につきました。

鈴木: グノの先生は、音読は英語の総合力を上げるからと音読をものすごく勧めます。僕も音読を続けていたら、いつの間にか英語がスムーズに頭に入ってくるようになって、日本語に訳さなくても意味を捉えられるようになりました。単語帳を頑張っただけでも、この感覚は絶対に分らないだろうと思います。

海老名: 僕は、他人の言うことを鵜呑みにするのは嫌いです。だから、高2の秋から冬にかけて、「グノは『単語帳は必要ない』と言っているけれど本当かな?」と疑って、1か月間単語帳を本気で覚えました。その結果、英文中の単語を、単語帳の訳と一対一で対応させられるようになったのですが、そのやり方には大きな問題があることに気づきました。

英文を読むときには単語の意味は瞬間的に分かる必要があります。いちいち英語を日本語に変換するやり方では、もたついてしまうのです。グノのやり方で英単語を身につけている人たちのスピードにはまるで追いつけないのです。「単語帳の暗記は本当に意味がない」と確信しました。「意味がない」と分かったこと自体に意味がありました。専門用語は単語帳での習得に意味があるかもしれませんが、普通の英文を読みこなす勉強には向かない勉強法だと思いました。

文法事項についても、グノは丸暗記ではありません。文法用語や、A to Bとか、A with Bのような型を教えるのではなく、その文法事項を含む英文を、先生が黒板にいくつか書いていきます。その英文を使って、どうしてこの時制なのか、どうしてこの前置詞なのかを、ネイティブの感覚を大切にして先生が説明していくと、「なるほど!」と納得がいきます。



切替 日奈子さん(東北大 [AO 入試]・渋谷教育学園渋谷)

英語を読む速度について

海老名: グノのやり方で英語を勉強していると、入試本番も、ものすごく速く読めます。速く読めれば、日本語での記述問題に時間をかけられたり、改めて解答を考え直す時間を確保できたりと有利です。

医科歯科(東京医科歯科大学)では、1500語くらいの英文を300~400字の日本語にまとめる問題が出題されますが、この問題には特に速読力が大きな武器になります。ある程度の速読力がある方が、全体の主旨や話の流れも上手くつかめます。

グノでは、「英語を読むことに頭の中の8割、9割を使ってしまうと、英文を読みながら他のことができなくなる。英語を読む作業を小さくすれば、内容を検討したり、批判的に考えたりするのに頭を使える。それには音読の練習が一番」と指導を受けました。医科歯科の要約には、まさにこの力が必要です。英文を読むことだけで精一杯だと、記述に必要な箇所を的確に見つけ出すことすらできません。

鈴木: グノで英語を勉強していると速読できるようになって、速読力は英文全体を俯瞰できる力につながるのです。受験の英語は必ずしも長文全体を精読する必要はありませんが、前からすばやく意味をとっていった全体の主旨とか流れを掴むこ

* 1 English Grammar Green Session for newcomers 英語が苦手になってしまった一般生のための、英文法の基礎を補完する講座。
* 2 この学年の英語は、高1までa(最上位)から、a1、a2、a3の設定。高2からa4、a5が順次追加されました。



鈴木 涼太さん(千葉大・駒場東邦)

読している英字新聞も読めるようになって視野が広がりました。大学に入ってからもさまざまな英文を読んでいくことになると思いますが、英語を読むことに抵抗もなくなっているし、文章全体を把握できるのは大切な力ですね。受験に留まらない読み方を習得できたことに感謝しています。

グノーブルの数学

木村: 中学受験のとき私は算数で失敗しました。だから、数学に対しても苦手イメージを引きずっていましたが、グノの先生が根気よく教えてくださったおかげで、私の中で数学の苦手イメージはかなり和らぎました。

そもそも算数が苦手になったのは、分からないことを放置していたためです。自分から何とかしようという意識もありませんでした。でも、グノでは先生が数学の楽しさを教えてくださったし、放置しないように根気よく指導してくださいました。結局、最後まで数学は得点源にはなりませんでしたが、数学の楽しさが分かる状態で受験を迎えられました。

切替: 私も数学が苦手でした。数学は他の科目と比べられないくらい悪い成績で、そもそも嫌いでした。「どうしたらいいのだろう?」という危機的な状況でした。そんな私を救ってくれたのが、グノで受けた I A II B の新鮮な授業でした。言葉を使って数学の概念を解説されるので、「そういうことなんだ」と何度も納得させられました。

担当の先生には、最初は厳しいイメージがありました。授業内容も難しく、分からないことがたくさん出てきます。「分からないし、どうしよう?」と心が折れそうでしたが、思い切って先生と一対一でお話ししたときから先生のことが大好きになりました。先生が生徒や授業のことをいっぱい考えてくださっているとよく分かったからです。先生も、「努力の方向は間違っていない」などいつも私を励ましてくださいました。

から、やる気を絶やさずに数学を続けられました。受験を迎える頃には、「数学が好き」という感情も芽生えました。

鈴木: 高1から数学を受講していたので、学校のテストでも数学で点がとれていて基礎的な力は高2までについていたと思っていました。

でも、高3の I A II B の授業は衝撃でした。前期の間は、それまでやってきたことをすべて言葉で捉え直して、意識的に使える武器に変えていくような作業でしたが、これが大変でした。問題を解くときに単に解き方が分かっているだけだと、先生からは「数で遊んでいるね」と言われてしまいます。「この先生、何を言っているんだ?」とちょっと傷ついたりもしました(笑)。

でも、周りの人たちが「すごい数学だ」と絶賛していたこともあり、「ついていこう」と心に決めていました。言葉が多用される独特の板書をしっかりノートに取りながら授業を受けているうちに、受験で使う数学の全体像を把握して、「行動の原理」、「行動の動機」を自覚しながら、個別の問題に対する方針ではなく、状況に合わせて大局的に方針を選んでいくスタイルが自分でも分かってきて、初見の問題への対応ができるようになりました。

宿題を自分でどう解いたかを報告する予習チェックシートもありました。



土持 有理さん(山形大・雙葉)



海老名 洸太朗さん(東京医科歯科大・学習院)

自分がどういう解き方でこの問題を解いて、どういう解き方をして失敗したか、もしくは成功したかを自分の中で整理できる優れたものです。自己を見つめ直す機会になりました。

グノーブルの物理

鈴木: 高3からは物理も受講しました。友人に勧められたのがきっかけです。前期は、物理の歴史をたどりながら公式を教えるという、全く見たことのない斬新な授業でした。授業内容は大学受験レベルを超えていて大学の内容も扱います。最初はとまどいも覚えました。そういう授業を受けているうちに、物理のセンスが身につきました。

後期のテスト演習では、前期で培ったセンスを存分に活かしながら、「この問題には、あの科学者が考えた公式を使えるな」と難問にチャレンジできました。

僕は物理が好きだったので、グノの授業がとても合っていました。好奇心を刺激してくる興味深い内容ばかりで、それが大学の勉強にもつながっていると思うとワクワクしました。

グノーブルの古文

木村: 高1で古文を受講しました。先生が体を張って単語の解説をくださって、それが強烈な印象だったので記憶に残ってしまう授業でした(笑)。古文も、単語帳を丸暗記するのではないという点で、グノの英語と似ています。古語の語源イメージを先生が再現して下さるの

で、「この古語を漢字変換すると、確かにこういう意味だ!」と納得しやすいですね。古文特有の時代背景も面白く解説していただきました。おかげで、ものすごく苦手だった古文が楽しくなりました。

グノーブルの先生

木村: 先生方は生徒一人ひとりを把握してくださいます。「最近調子良くないね」と声をかけてくださることもあって、ときには傷つきながらも(笑)、「見透かされてる。やっばりやらなきゃ!」と奮起していました。「先生からいいコメントをもらいたい」という思いも、頑張るための原動力になっていました。

グノでは、たった一年だけのご縁だった先生でも、その後「センターの勉強は進んでいる?」などと私によく声をかけてくださいました。覚えてくださっていることが、とても嬉しかったです。

切替: 先生たちは最初の授業ですぐに名前を覚えてくださいます。授業中は厳しそうな先生でも、授業後に質問に行くと親切に答えてくださいます。しかも、生徒それぞれの特徴を把握されていて、私が全て言わなくても、先生が察して下さるので、だから、質問に行くのがやる気につながっていました。「質問できることはないかな? 質問に行って個人的に先生と話したい!」と思うくらい、先生を信頼していました。

土持: 先生たちは真剣に授業をしてくれるので、添削が終わった後に、みんなの出来が悪いときなどは、基本元氣な先生が、本当に悲しそうな表情をされることもあるんです。「みんなの点数が悪いからじゃなくて、どんな助言をすれば良いのかが思い浮かばなくて…」と先生が話し始めると、私たちが泣きそうなくらい思いをしていました。「先生を悲しませたくない」と思ってみんなで頑張ったりもしていました。

切替: 「今週の〇〇先生」みたいな話題がグノ生の中で盛んでした。先生が元氣過ぎて授業が長かったとか、今週は先生も泣きそうだったか

ら本当にきついか、みんなで情報を回していました(笑)。

先生が、「みんなは読書体験が少なく、それで、抽象的な事柄を自分に引き寄せて考えられなかったり、論理展開についていけなかったり、ということもあると思う」とおっしゃっていた時期がありました。それを聞いた私は受験学年だったにも関わらず、「本を読もう!」と決心しました。この一年は、受験生なのに中高の時期の中で一番本を読みました。時間を決めて一日にちょっとずつ、たとえば、歯を磨く時間にも読み続けていました。読書経験のおかげで、読解力が上がったり、知識が増えて英文も読みやすくなったりしたのかもしれませんが。読書が素養につながったような気がしています。

海老名: 僕の場合も、グノに通っている友達と「昨日の〇〇先生はどうだった?」という話をよくしていました。先生のところに、ろくでもない会話を持っていっても参加してくださいし、真面目な相談にも乗ってくださいました。「先生」というよりも「頼れる大人」という感じでした。

鈴木: グノーブルは先生との心の距離が近いと思います。先生方はとても話しやすく、質問したりコミュニケーションをとったりしやすかったです。僕も周りの友達も、先生と話すのを楽しみにしていました。授業外もみんなで盛り上がっていました。先生方は、僕たちからみて、頭が良く知識が豊富で、話し相手としても面白かったし、相談相手としても頼りがいがありました。

海老名: 「先生がいつ寝ているのか?」に関する真面目な議論もあり



木村 恵理さん(山形大・百合学園)

ました。質問や添削依頼のメールを何時にしても、結構すぐに返信があります。「メールを送る時間を段々遅くしていったら、先生がどこで寝たかが分かるんじゃないか?」とみんなで話し合ったりもしていました(笑)。

先生のことを、生徒はみんな考えていましたし、生徒一人ひとりのことを先生方も考えてくださっていました。いろんな意味で、先生と生徒の距離の近い環境が実現されていました。

鈴木: 先生方は生徒のことを真剣に考えてくださるので、添削で点数が低いと「先生に申し訳ない」という気持ちになります。黒板に書かれる点数表を見ながら自分の位置を意識して、「来週は頑張らなくちゃ!」とやる気につながっていました。

医学部の面接について

土持: 山形大の面接では、志望動機などが聞かれると思っていましたが、それよりも部活のことを重点的に聞かれました。私は写真部で、暗室での焼き付けまでやっていたので、面接官の共感を得やすかったようです。東京と山形の違いについてなども聞かれましたが、山形で学べることを楽しみにしている気持ちを忘れないように答えました。また、山形大学医学部には、国立大学では初めて設立された「がんセンター」があります。その施設に対しての関心についても話しました。

地方の医学部を受験する場合、余裕があれば、志望大学のある県に受験前に一回行っておくのもいいかもしれません。その土地の印象を聞かれたりしたときに答えやすくなると思います。

木村: 私も、医師を目指す理由や大学の志望理由、将来どの方面に進みたいかという質問に対しては準備をしていましたが、そのような質問はなく、やはり、部活のことを聞かれました。「考古学研究部」に入っていたので、「好きな時代は?」とか「好きな古墳の形は?」といった質問です。

他には、調査書や受賞歴のことをいろいろ聞かれましたが、医学部に関わる質問は、「将来何科に行きたいですか?」というものだけでした。

切替: 私はAO入試でプレゼンの課題がありました。AO入試なので、勉強以外のものを受験生に求めているのだと思います。プレゼンの準備時間は30分です。テーマが提示されて、それについてポスターを6枚書き、5分間のプレゼンをする準備をします。プレゼン終了後には10分間の質疑応答も行われます。

私のテーマは、「あなたが発見した物質Xは苦みをなくす作用があります。それを使って開発した商品についてのプレゼンをしてください」というものでした。作用する仕組みの説明、商品の概要、商品名、今後の課題などを盛り込むように、という指示もありました。

作用の仕組みについては直前に講義があって、2つの方向が示されていました。質疑応答の時間には、私が選ばなかった方向について、「もう1つの方向だったらどうですか?」という質問がされました。他には、「実験はヒトで行いますか?」「動物実験を行うなら、何を測定しますか?」などの質問を覚えています。その場での思考力が問われた印象でした。

鈴木: 千葉大では1対1の面接を3回繰り返します。質問内容は、志望動機や高校のことではなく、医療系の小論文で聞かれるようなことです。お題が書かれたカードを渡されて、1分間考えた後、自分の意見を述べます。難しいお題が多くて、僕は、3つのうち1つしかまともには答えられませんでした。面接官がフォローを入れてくれたこともあり

僕が受けた面接の3つのお題は、「ある薬が流通しているが、その薬は正規の方法で作られたものではない。しかし、その薬を生産中止してしまうと困る患者さんもいる」、「大学院に在籍する生徒が考えた研究を、ある教授がその大学院生の許可を得ずに雑誌に投稿した」、「ある病院ではベッド数が足りていない。そんな状況下で、治療の済んだ患者さ

んが『もう少し入院させてほしい』と言っている。その患者さんを退院させないと、新しい患者さんを受け入れられない」でした。それぞれのお題について、問題点と対策を述べる必要があります。

面接官も「正解はない」と言っていました。だから、自分の意見を述べればいいのですが、僕はなかなか答えられなかったのです。私立の普通の面接とは異なるので、事前に練習するなどしておかないとつかいかもかもしれません。

海老名: 医科歯科の面接で定番なのは志望理由です。「どうして東大を受験しなかったの?」という質問の対策として、医科歯科と東大の入試問題の違いを分析していました。「こういう入試問題を出題する医科歯科は、こういう生徒を求めているのだろうと思いました」というストーリー作りをしたわけです。入試問題には、大学の求める生徒像が反映されます。センターと二次の比率を見てもそれが分かります。過去問を分析すること自体が面接対策にもなると思います。



切替 日奈子さん (東北大 [AO入試]・渋谷教育学園渋谷)

医学部を目指す後輩へのメッセージ

土持: 音読には毎日取り組みましょう。お風呂の中などで音読するのをお勧めします。真面目に音読を続けている人は必ず伸びています。音読の効果を最初は信じられなくても、継続することが大切です。音読をやらずに「英語ができない」と言うと、「音読をやってないから!」と先生方に切り返されるだけです。

木村: できるだけ毎週授業に出席してください。学校の試験前などで1回でも授業を休むと、かなり大きな穴が開きます。振替を上手く利用して頑張るのがお勧めです。

それから、最後まで諦めないでください。私はずっと判定が芳しくなくて、周りからは他の学部を何回も勧められました。周りの意見に従って後悔するよりも、自分で決めたことを貫いて納得した方が絶対にいいです。

切替: 目標を常に意識するのが大事です。私は別の国立医学部に通っている姉の影響もあり、高2で研究所の見学に行ったり、自分で研究して

論文を書いたり、そういう課外活動にも真剣に取り組みました。

私は「自分は頭がいい」と思ったことは一度もありません。でも、「大学受験なら努力で何とかしたい!」という目標を胸に秘めていたため、模試の成績が悪くてもそれに振り回されず、「絶対に受かる!」という信念をもって勉強し続けられました。

鈴木: 医学部志望だからといって難問にばかり取り組んではいけません。基礎を固めた上で手を広げるのがいいと思います。医学部の問題は、東大のような難問ではなく、比較的解きやすい問題ばかりです。そうした問題で着実に高得点をとらないと受からないところに医学部の難しさがあります。

また、受験勉強ではメリハリが大切です。高2までの僕は、勉強よりも学校行事に力を入れていました。高3になっても、行事があると勉強しないことが多かったです。でも、計画を立てて、勉強する時間をきちんと確保していたので問題ありませんでした。勉強するときはしっかり

やり、他にやりたいことがあったらそちらにもしっかり取り組むというスタイルを僕はお勧めします。

海老名: 医学部は、偏差値によらない難しさがあります。国立大に関してはセンター試験でも高得点が必須ですし、私大なら癖のある問題の対策も必要です。だからこそ、本当に行きたい大学に絞って勉強するのが、医学部受験で合格に近づくための近道です。いろいろな大学を受験しようとして、「二兎を追う者は一兎をも得ず」になってはいけません。

最後にグノの利用法をお話しします。まず「英語がちょっと得意かな」と思っている人にはグノが絶対お勧めです。ものすごく英語ができる人たちにもまれるのが貴重な経験になるからです。しかも、グノには、ものすごく数学や理科ができる人たちもいます。彼らと自分を比較して「英語だけは負けない!」と奮起するのもいいですね。身近なところライバルを見つけて、「あいつよりもいい点をとる!」と意識しながら勉強に励んでください。



鈴木 涼太さん (千葉大・駒場東邦)



土持 有理さん (山形大・雙葉)

グノーブルの授業は、 皆さんと私たちの合作。

一方通行の解説で眠くなることはありません。

- 「家で宿題、塾で答え合わせ」という古いスタイルを打ち破っています。
- 授業中に集中して演習できます。私たちはその答案をその場で添削します。
- 演習直後の解説は、私たちと皆さんがやりとりしながら進みます。
- 皆さんが楽しく効果的に取り組める教材を、毎週新しく配付します。

熱中できる仕組み、質問も相談もすぐにできる環境を実感してください。

大学受験 Gnoble

大学受験 グノーブル

難関大学・医学部を目指す中1生～大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんをしっかりとサポートしていきます。

中学受験 Gnoble

中学受験 グノーブル

難関私立国立中学を目指す小学生

先進のカリキュラム、精選されたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師陣が子供たちの一人ひとりに向き合った集団授業を展開し、難関中合格へ導きます。学習したい単元や志望校別のクラスが選択できるなど、個々の中学受験に適した受講スタイルを提供していきます。

個別指導 GnoLink

個別指導 グノリンク

難関校を目指す小学生～大学受験生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性を引き出し、伸ばしていきます。グノーブルのテキストや他塾テキスト、市販の書籍等を使用し、学習状況に合わせた個別指導を提供します。また、中高一貫校の生徒の学内テスト対策、大学受験に向けた学習なども手厚くフォローします。

英会話 GnoKids

英会話 グノキッズ

0歳児から小学生のための英会話

楽しいゲームや歌、工作やダイアログなどの楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、書く、4つの基礎力を伸ばします。先生2名に生徒は8名程のクラスで、45分～90分間ネイティブの自然な英語に触れ、親しむことができます。ご家庭での学習にも配慮したオリジナル教材で、保護者の方とも一緒に楽しく学習できます。

Gnobleグループ 各校舎所在地



大学受験 グノーブル
個別指導 グノリンク

中学受験 グノーブル
英会話 グノキッズ

グノーブル総合案内
www.gnoble.com